仙台市文化財調査報告書第66集

年　報　5

昭和58年度

昭和59年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第66集

年　報　5

昭　和　58　年　度

昭和59年3月

仙　台　市　教　育　委　員　会

序

「モノから心の時代へ」といわれはじめて久しくなりました。物質的な生活の豊かさを求めてみんなが一心不乱に働き続けたことが、社会にさまざまなひずみを引き起したいわゆる高度成長期。その反省として生み出されたこの言葉は、大変抽象的ながらも、時代の大きな転換を予感させつつ社会全体に深く浸透してきたように思われます。そして、心の豊かさの回復という困難な課題に対して、何とか具体的な解決の糸口を見い出そうとする試みが広がりをみせています。

近年、歴史が静かなブームを呼び、一般的に取りつきにくいイメージのあった文化財に対する関心が次第に高まりつつあります。これも単に流行的な現象というより，めまぐるしい時の流れのなかで見失い、忘れ、あるいは置き去りにしてきたものを想い起こし、もう一度見つめ直してみるという意味を含めた、大きな背景をもつ動きとみることができるのではないでしょうか。永いときを刻みつつ人々が歩んできた道と、その過程で培われてきた有形・無形の遺産の数々は、決して現代を生きる私たちとかけ離れた存在ではなく、むしろ常に新鮮さをもって何かを問いかけ続けていく力を秘めています。私たちがその声なき声に耳を傾けるならば、それに応じて更にさまざまなことを語りかけ、新しい時代を創造してゆく上できっと大きな手助けとなることでしょう。

文化財というものに蓄えられた豊かな可能性を余すところなく引き出していくこと、それが文化財行政に求められる最も重要な課題であるといえます。そのためには対象を適確な眼でとらえ、記録し、保護・保存を図ったり、あるいは必要に応じて手を加えるなど、実に広範囲の業務をバランス良く進めなければなりません。併せて市民の皆さんに親しんでいただくといった工夫も無論大切なこととなります。この１年も、仙台市教育委員会ではさまざまな角度から全力をあげて事業の推進に取り組んでまいりましたが、そのひとつひとつが小さな歩みに過ぎないとしても、文化財を活かしていく上での確かな積み重ねとなるものと信じてやみません。

ここにまとめた報告は、その成果の一端を収録したものです。刊行にあたってご協力をいただいた関係各位に心から感謝を申しあげるとともに、今後とも本市の文化財行政に対しご指導ご支援をいただきますようお願いし、ごあいさつといたします。

昭和59年３月

仙台市教育委員会

教育長　藤　井　　黎

目　　次

序

目　次

例　言

Ⅰ．事　業　報　告

1．管　理　関　係……1

2．調　査　関　係……6

Ⅱ．調　査　報　告

1．今　泉　城　跡……15

2．富沢水田遺跡……22

3．遠見塚古墳出土の条痕文土器片……28

4．仙台市指定文化財候補物件調査報告Ⅱ……30

例　　言

1．本書は、仙台市教育委員会社会教育課文化財管理係・文化財調査係が昭和58年度に行なった文化財保護管理、文化財保護思想の啓蒙普及活動、文化財の調査に関する各種事業についての年度報告書である。

2．調査報告のうち埋蔵文化財関係は、昭和58年度に実施した発掘調査のうち独自に概報もしくは報告書にまとめるに至らなかった小規模な発掘調査２件の概報、及び過年度調査にもとづく考察１件の計３件を掲載した。

3．「仙台市指定文化財候補物件調査報告」は、仙台市文化財保護委員会委員をはじめとする各分野専門の先生がたに調査していただいた調査報告のなかから、昭和58年度分のうち建造物部門２件に関するものを掲載した。

4．調査報告のうち埋蔵文化財関係分の執筆については、Ⅱ－１を柳沢みどり、Ⅱ－２を金森安孝、Ⅱ－３を佐藤甲二・結城慎一・工藤哲司がそれぞれ担当した。

Ⅰ．事　業　報　告

1．管　理　関　係

（1）　一　般　文　化　財

1）　文化財保護委員会

本年においては、定例会６回に加え臨時会１回、及び部門別の仙台市指定文化財候補物件調査小委員会５回を開催した。

定例会・臨時会では、懸案となっていた経ヶ峯（伊達家墓所）の市史跡指定問題を中心に経緯し、二度にわたる現地視察を交えて現状把握、及び指定範囲等について協議が重ねられた。また、11月には建造物１棟（旧伊達邸）の市文化財指定についての諮問を受けて審議を行ない、答申に至っている。

その他、文化財指定に関しては昨年度に引き続き美術工芸、建造物、歴史文献、無形・民俗の四部門について各１回の小委員会を開催し、従来の指定候補物件に関する調査検討、及び新たなリストアップ等が行なわれた。また、美術工芸部門のうち彫刻関係については、小委員会委員による現地調査も実施された。各小委員会の検討結果は定例会において報告され、今後の指定のあり方などについて意見交換が行なわれた。

なお、現職委員のうち仙台市議会選出の委員については、市議会議員改選に伴い浅野継男委員が辞任され、後任として橋本亮委員が昭和58年５月１日付で委嘱された。

2）　文化財パンフレット

今年度においては、第８集として「時をさかのぼる－複合遺跡上ノ台」を刊行し、昭和55年の発掘調査で前期旧石器時代の文化層が発見され、広く注目をあつめた山田上ノ台遺跡の紹介を行なった。

また、既刊の文化財パンフレットのうち、第３集「仙台市の古建築Ⅰ（明治以前）」及び第４集「仙台市の古建築Ⅱ（明治以降）」の再版を併せて行なった。

3）　説明板の設置

本市では国際化へ向けてのまちづくりの一環として、案内板や表示板の統一性をはかるため「サイン計画」が具体化しつつある。今年度の説明板設置事業では、これに整合性をもたせる試みとして新規のモデルの説明板（本体材質：ＧＲＣ、表示部：アルミプレートエッチング）を愛宕山装飾古墳に１基設置した。これは、すぐれた耐久性と美観を兼備するとともに、英語表示・図示を含めた情報内容となっており、文化財の周知・保護への効果が期待される。

4）「由緒ある町名・通名と八十八辻」辻標の設置

昭和58年11月に選定委員会（佐々久委員長）を開催し、その協議結果に基づいて次の５基を

設置した。

連坊小路・長泉寺横丁(連坊二丁目・モリヤ和洋菓子店前)、新寺小路・二軒茶屋（市道清水小路多賀城線歩道上)、河原町・河原町横丁(時計宝石の大井河原町店前)、 覚性院丁・石切町(八幡二丁目・小梨石材店前市道上)、土橋通・十二軒丁（広瀬町市道北三番丁線上)

なお、昭和52年の事業開始以降、設置総数は39基を数える。

5） 文化財めぐり

市民の文化財に対する理解と認識を深め、あわせて文化財保護思想の高揚をはかるため、市内をはじめ身近に存在する文化財に接する機会として下記のとおり文化財めぐりを実施した。

月　日	昭和58年8月21日(月)	昭和58年9月25日(日)	昭和58年11月6日(日)
行事名	「古民家を訪ねて」	「宮町・小松島周辺をめぐって」	「河原町とその周辺」
対象	小学生(高学年)35名	高校生以上の市民　80名	高校生以上の市民　60名
講師	逸見英夫氏(郷土史家) 他	逸見英夫氏(郷土史家)	市博物館鵜飼幸子学芸員
コース等	柴田町・平井家(商家)～蔵王町・我妻家(農家)～白石市・小見家(武家屋敷) ※体験学習(縄ない)を実施	清浄光院～福沢神社～延寿院～仙岳院～東照宮～万寿寺　他 ※平家琵琶観賞も実施	七郷堀～舟丁～南材木町～新弓町八幡神社～河原町(土蔵建築見学)～桃源院蔵塚)～旅立稲荷神社　他

6） 文化財講座

文化財の啓蒙普及事業として下記のとおり5回の文化財講座を実施した。

月　日	テーマ	講師	会場
昭和58年7月17日(日)	神社建築をめぐって	佐藤　巧氏(東北大学教授)	大崎八幡神社
昭和58年8月28日(日)	仙台の民俗芸能とその伝承	千葉　裕一氏(県審議会委員)	戦災復興記念館
昭和58年12月11日(日)	中世の岩切城	入間田宣夫氏(東北大学助教授)	岩切公民館
昭和59年3月24日(土)	富沢周辺の考古学	渡辺　泰伸氏(育英高校教諭)	仙台市役所
昭和58年 7月31日(土) 8月1日(日)	親と子の文化財教室 (1日目：映画・スライド・遺物等による学習 2日目：発掘体験学習・見学)	社会教育課文化財調査係職員	中央公民館 後河原、郡山、下ノ内浦の各遺跡発掘調査現場

7） 文化財の指定

本年度においては、次の物件が仙台市指定文化財として新たに指定された。

種別	名称	員数	指定年月日	備考
有形文化財(建造物)	旧伊達邸	1棟	昭和58年12月1日	明治後期の華族邸宅 木造平屋一部二階建　瓦葺住宅

旧伊達邸の文化財指定により、市指定文化財の総件数は26件、建造物では３件となった。

８） 文化財分布調査

昨年に引きつづいて、仙台市内にある文化財の基本台帳整備のため柳生地区の石碑分布状況の確認調査を実施した。

９） 指定文化財の維持管理

昭和58年８月に市指定史跡・三沢初子の墓などの除草清掃及び国指定史跡・陸奥国分尼寺跡の樹木剪定を、同年７月・９月には国指定史跡・陸奥国分寺跡の樹木消毒及び一部除草清掃をそれぞれ実施した。

10） 文化財の防災点検

恒例の文化財防火デー（１月26日）に伴ない、市消防局による事前査察（昭和59年１月23～25日）が計12ヶ所で、また防火デー当日には防災訓練が計６ヶ所でそれぞれ実施された。

（２） 補　助　事　業

〔１〕 県費補助事業

１） 指定文化財保存管理事業

大崎八幡神社(国宝・重文)・東照宮(重文)・陸奥国分寺薬師堂(重文)の３件について、防災設備保守点検、小修理などの維持管理事業に対し補助を行なった。

２） 無形文化財保存事業

宮城県指定無形文化財の館山甲午氏(平曲技術保持者)、甲田綏郎氏(精好仙台平技術保持者)及び同無形民俗文化財の大崎八幡神社能神楽保存会の２個人１団体の技術保持に対し補助を行なった。

〔２〕 国庫補助事業

１） 史跡陸奥国分寺跡土地買上げ事業

目的：史跡陸奥国分寺跡の保存保護を図るため、史跡指定地の公有化を図る。

土地公有化の実績：土地の公有化は昭和43年度から着手し、昭和57年度までに社寺有地を中心に主要堂塔跡地18,853.09㎡の公有化を終了している。

今年度の事業：今年度は南大門跡南側の民有地109.09㎡の公有化を実施した。

今後の事業予定：最終的には史跡指定地内全域の公有化を図るのが目的であるが、現実には諸条件がからむため困難なことが多く、現実には現状変更に伴う買い取り請求の都度対応していくなど段階的にすすめざるを得ない。

2） 史跡陸奥国分寺跡環境整備事業

目的：史跡として最もふさわしい状態に整備して活用をはかり、広く市民の文化的生活の向上に資することを目的とする。

環境整備の進捗状況：昭和47年度から事業に着手し、昭和55年度までに金堂跡、七重塔跡、中門跡、廻廊跡など主要堂塔跡の整備を終了している。

今年度の事業：今年度は南大門跡東脇築地跡の確認とこれに関連する遺構の調査を実施するとともに、南大門跡南側の市有地について、周辺の景観に配慮しながら、整地並びに植栽工事を行った。また、社寺有地以外の公有化についても、昭和54年度以降、進んできたため、国分寺跡の全体計画について再検討の必要が生じたため、陸奥国分寺跡調査整備審議会を昭和58年10月と昭和59年３月の２回開催した。

今後の事業予定：陸奥国分寺跡調査整備審議会の審議結果をふまえながら、改めて全体的な国分寺跡の整備計画（指定地全域を含めたもの）をたて、その計画に基づいた整備を実施する必要がある。

3） 史跡遠見塚古墳環境整備事業

目的：遠見塚古墳の保存を図り、史跡にふさわしい状態に整備するとともに、史跡公園として市民の活用に供することを目的とする。

今年度の事業：今年度と来年度の２ヶ年で古墳墳丘部の修景工事を実施する予定で、今年度はその後円部について復原工事（盛土と張芝）を実施した。

今後の事業予定：今後は、前方部・周湟の整備工事、その周辺の植栽工事、便益施設等の設置工事を予定している。

4） 史跡岩切域跡詳細分布調査・保存施設事業

今年度の事業：今年度は保存施設事業としては、岩切域跡の概要について市民に周知を図るため、説明板、標柱を各１基、高森山公園の入口に設置した。また、詳細分布調査事業としては、現地踏査の結果を踏まえながら、地形測量を行い、縮尺1/1000の実測図を作成した。

今後の事業：今後は、岩切域跡に関する文献・発掘調査等の基本調査を実施しながら、史跡の保存管理やその活用について検討していく必要がある。

5） 史跡陸奥国分尼寺跡土地買上げ事業

これまでの実績：陸奥国分尼寺跡は、昭和23年12月８日付文部省告示第98号をもって国の史跡に指定され、昭和42年に史跡指定地の一部の土地(推定金堂跡)307.81㎡を公有化し、翌43年に文化庁の指導を受けて整備を実施している。

今年度の事業：今年度は、環境整備を終了した個所の西隣の民有地162.52㎡について公有化を行った。

今後の事業：今年度公有化した土地について、今後調査を行い、その成果に基づいて環境整備に着手する予定である。

6） 郡山遺跡地の発掘調査事業

郡山遺跡緊急範囲確認調査

本年度は、昭和55年から開始された緊急範囲確認調査５ヶ年計画の第４年次にあたり、推定方四町Ⅱ期官衙域内の中央やや北寄りの地区 1,400㎡を第35次調査として実施した。また、推定方二町寺域の東外側地区の遺構確認調査を 520㎡にわたって、第41次調査として実施した。調査は４月18日に開始し、11月18日に終了した。さらにこれらの他、個人住宅等の建築に係る事前調査を６ヶ所(第36～40・42次)で行った。調査総面積は 2,175㎡である。

第35次調査は昭和57年度第24次調査に引き続き推定方四町Ⅱ期宮衙の中心施設を明らかにすべく実施したものであるが、これより先行するⅠ期官衙の遺構群を中心に古墳時代から中世にわたる数多くの遺構・遺物が発見された。Ⅰ期官衙の遺構群は第24次調査で発見された掘立柱建物跡や材木列と一連のもので、東西長51ｍ(170尺)～54ｍ(180尺)、南北長60ｍ(200尺) 以上の材木列によって区画された官衙ブロックが明らかになった。この中には掘立柱建物跡や竪穴住居跡が方向を揃えて並んでおり、２～４回の建て替えも認められる。このⅠ期官衙遺構群は基準方向が真北線から30°～34°東にずれている。また、このⅠ期官衙遺構よりさらに古い竪穴住居跡の存在も確認された。

Ⅱ期宮衙の遺構は極めて少なく、当初確認することを目的とした中心施設は発見されなかった。しかし、外郭南辺材木列から北に３町の位置で、真東西方向に延びる一本柱列と溝跡を発見した。この一本柱列は塀と考えられ、この北側にはほぼ同時期に建てられていたとみられる掘立柱建物跡や井戸跡があり、方四町官衙内で北側を区画した内部の小区画施設と考えられる。井戸跡は木枠組が遺存し、深 3.5ｍ以上、井井枠内法70㎝の横板組のもので、底面から１ｍ程まで、土器類がつめ込まれた様な状況で出土した。土器類は須恵器鉢２個体・壺２個体、土師器高坏片１点の他は土師器甕が 100個体程あり、一時的、意図的に一括投棄されたものと考えられ、全国的にみても類例のない資料となった。

第41次調査はⅡ期官衙、寺域外の遺構確認を目的に実施したが、Ⅱ期官衙造営基準と同方向の南北に延びる溝跡を１条発見したのみである。

今年度の調査ではⅠ期官衙の範囲が六町以上に広がっていること、倉庫群とは別に柵で囲まれた官衙ブロックが存在し、さらに北に広がっていること、Ⅱ期官衙は方四町と考えられる北部地区に塀で区画された一画が存在することなどが明らかになった。

仙台平野の遺跡群発掘調査

仙台平野に分布する遺跡群にかかる小規模な開発（個人住宅の建築等）に伴う、遺跡の範囲確認・性格究明を目的とした発掘調査事業の第３年次にあたる。今年度は、提出された発掘届の中から富沢水田遺跡（２件）、郡山遺跡（５件）の２遺跡７件について発掘調査を実施した。発掘調査は６月から12月にかけて実施し、調査面積は 320㎡であった。調査の結果、富沢水田遺跡では弥生時代から平安時代にかけての畦畔・水田跡を検出し、水田遺跡の範囲が東方、北方に広がっている可能性を示すことが判明した。郡山遺跡の調査は、郡山遺跡緊急範囲確認調査事業と関連する個所が多く、協力体制を組み、官衙遺構の究明に大きな成果を得た。今後は未調査の遺跡について、詳細な分布調査を含め、範囲・性格を明らかにする調査を実施していく必要があるといえる。

２．調　査　関　係

（昭和58年度）埋蔵文化財発掘調査事業概要

昭和58年度の発掘調査事業は、公共事業関係では高速鉄道南北線建設工事に伴う①富沢水田　②下ノ内浦　③下ノ内　④伊古田の各遺跡の調査　⑦電話線工事に伴う富沢水田遺跡(1)の調査　⑨広南病院建設工事に伴う富沢水田遺跡(2)の調査　⑩都市計画街路川内～南小泉線の建設工事に伴う南小泉遺跡の調査　⑪仙台市博物館建設工事に伴う仙台城跡の調査　⑫給食棟建設工事に伴う六反田遺跡の調査　⑬道路工事に伴う上野遺跡の調査がある。

民間開発事業では、宅地造成に伴う⑤戸ノ内　⑥後河原　⑧今泉域跡の各遺跡の発掘調査がある。

国庫補助事業では⑭郡山遺跡の緊急範囲確認調査（５ヶ年計画の４年次）、⑮史跡陸奥国分寺跡の環境整備事業のための調査、⑯仙台平野に分布する遺跡内の小規模開発（個人住宅の建設等）に関する調査があり、それぞれに調査成果をあげることができた。以下それぞれの概略についてふれる。

①富沢水田遺跡では、三時期（平安時代以降、平安時代、弥生時代）の水田跡を検出。弥生時代の水田跡については⑨と同様、東北地方では青森県に次いで二例目の発見

②下ノ内浦遺跡では、平安時代の水田跡、竪穴住居跡２、掘立柱建物跡２、弥生時代の竪穴状遺構１、土坑、ピット群を検出。土師器、弥生土器、縄文土器、石庖丁も出土。

③下ノ内遺跡では、古墳～平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡を検出。

④伊古田遺跡では、古墳～平安時代の竪穴住居跡、縄文時代中～後期の遺物包含層を検出、縄文土器、土偶、緑釉陶器（段皿他）、青磁碗を出土。

⑨富沢水田遺跡(2)では、弥生～中世の間の５面の水田跡、縄文時代の旧河川を検出。縄文土

器、弥生土器、石庖丁を出土、特に弥生時代の木製農具（鋤・鍬）の出土は東北地方で初めて。

⑩南小泉遺跡では、古墳～平安時代の竪穴住居跡、中世の大溝跡を検出。

⑪仙台城跡では、溝跡、掘立柱建物跡、基壇状遺構を検出。瓦、近世陶磁器、木製品（櫛・箸・下駄など）、古銭、慶長一分判金などを出土。

⑫六反田遺跡では、平安時代・平安時代以降の水田跡、奈良時代の竪穴住居跡を検出。土師器、須恵器、縄文土器、炭化米を出土。

⑬上野遺跡では、縄文時代中期の竪穴住居跡、炉跡を検出。狭い調査面積ながら多数の縄文土器片、石器が出土。

⑤戸ノ内遺跡では、古墳時代前期の方形周溝墓、竪穴住居跡、平安時代と中世の溝多数を検出。土師器壺、甕、器台、中世陶器甕を出土。

⑥後河原遺跡では、平安時代以前～近世までの水田跡２面を検出。陶磁器、木製品、土製品などを出土。

⑭郡山遺跡、⑮陸奥国分寺跡、⑯仙台平野の遺跡群についての概要は、前述の国庫補助事業の項目を参照。

以上のように13遺跡15ヶ所において発掘調査が行なわれ、大きな成果をあげることができた。遺跡の発掘届（通知）は前年を下回ったが、ここ３年間は215～270件を数え、大部分は立会調査であり、一部試掘調査、事前調査となっている。今後も先人の伝えてくれた文化財を後世に伝えていくべく最大の努力を注いでいく考えである。

昭和58年度発掘調査の概略

No.	遺跡名	時代	種類	対象面積㎡	調査面積㎡	調査期間	担当職員	報告書	備考
1	富沢水田（高速鉄道関係）	弥生、平安、平安以降	水田跡	2,700	2,400	4/13～1/9	斎野、荒井、渡辺(誠)	69集	公共事業
2	下ノ内浦（高速鉄道関係）	縄文～平安	集落跡、水田跡	1,900	970	4/13～12/23	吉岡、成瀬	69集	〃
3	下ノ内（高速鉄道関係）	縄文～平安	集落跡	3,500	2,000	4/13～12/23	篠原、渡辺(忠)、佐藤(裕)	69集	〃
4	伊古田（高速鉄道関係）	縄文、古墳、平安	集落跡	1,800	1,416	4/13～12/27 3/5～3/23	篠原、高橋、渡辺(忠)、佐藤(裕)	69集	〃
5	戸ノ内	古墳、平安、中世	集落、墓	7,100	3,500	5/9～12/23	渡部、主浜	70集	民間開発
6	後河原	弥生？～近世	水田跡	4,500	1,700	4/11～9/13	青沼、佐藤(甲)	71集	〃
7	富沢水田(1)	弥生、平安	水田跡		46	7/26～8/5	金森、柳沢	66集	公共事業
8	今泉城跡	縄文、古墳、中近世	集落跡、城跡		28	6/15～6/18	柳沢、金森	66集	民間開発
9	富沢水田(2)	縄文～中世	水田跡	1,790	1,300	4/18～11/14	工藤、渡辺(誠)	67集	公共事業
10	南小泉	弥生～近世	集落跡	1,500	600	5/9～7/26	結城、佐藤(洋)	68集	〃
11	仙台城跡	近世	城館跡	5,200	2,400	8/23～12/28	結城、佐藤(洋)	昭和59年度	〃
12	六反田	縄文、奈良、平安	集落跡、水田跡	168	168	10/3～12/10	田中、菅原	72集	〃
13	上野	縄文	集落跡		103	11/14～12/27	金森、菅原、佐藤(甲)	昭和59年度	〃
14	郡山	古墳～奈良	官衙跡	—	2,175	4/16～12/23	木村、菅原、長島	64集	国庫補助
15	国分寺跡	奈良～平安	寺院跡		140	9/26～11/15	青沼、佐藤(甲)	63集	〃
16	(仙台平野の遺跡群)	—	—	—	—	4/17～12/24	金森、柳沢、佐藤(隆)	65集	〃

昭和58年度発掘届(通知)一覧

昭和59年　月　日現在

整理番号	遺跡名	所在地	原因	開発面積	処理	遺跡の性格
1	C－141 菖蒲沢	鶴ヶ谷字菖蒲沢26－4	住宅新築	73.70㎡	立ち会い	集落跡（縄文、奈良、平安時代）
2	C－233 山口	富沢字山口54－1他	〃	124.33	〃	集落跡、水田跡（縄文時代～中世）
3	C－419 陸奥国分寺	木の下二丁目	〃	63.76	〃	寺院跡（奈良、平安時代）
4	C－225 鶴巻Ⅱ	福室字鶴巻2番51－1	倉庫建築	140.72	〃	集落跡（平安時代）
5	C－421 仙台東郊条里跡	南小泉字七曲86番地の1	事務所解体新築	210.83	試掘	条里遺構（奈良、平安時代）
6	C－501 仙台城	川内追廻無番地363号	住宅解体新築	69.41	立ち会い	城館跡（南北朝～江戸時代）
7	C－276 長町六丁目	長町六丁目65－9	住宅新築	84.46	〃	集落跡（奈良、平安時代）
8	C－102 南小泉	南小泉字遠見塚西92－1	住宅解体新築	97.30	〃	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
9	C－102 南小泉	南小泉字七曲27－16	住宅新築	86.12	〃	〃　〃
10	C－507 今泉	今泉字久保田97-1　97-6	〃	40.10	〃	集落跡、城館跡（縄文時代～近世）
11	C－193 山田上ノ台	山田字北前63－1	〃	161.0	試掘	集落跡(前期・後期旧石器、縄文、平安、江戸時代)
12	C－104 郡山	郡山三丁目14	舗装工事	350.0	立ち会い	官衙跡（古墳～奈良時代）
13	C－401 堤町瓦窯跡	堤町一丁目9－24	貸事務所建築	188.52	試掘	窯跡（平安時代）
14	C－104 郡山	郡山三丁目128－35	住宅新築	105.01	〃	官衙跡（古墳～奈良時代）
15	C－224 鶴巻Ⅰ	福室字鶴巻一番114の5	〃	95.73	立ち会い	集落跡（平安時代）
16	C－104 郡山	郡山六丁目3－6	車庫建築	21.18	試掘	官衙跡（古墳～奈良時代）
17	C－415 (案内古墳) 大蓮寺窯跡	安養寺下82－94	墓地造成	882.85	〃	窯跡（古墳、白鳳、奈良時代）
18	C－215 砂押Ⅱ	沖野字砂押45－3	住宅増築	13.25	立ち会い	集落跡（古墳、奈良、平安時代）
19	C－102 南小泉	遠見塚一丁目1	共同住宅解体新築	101.12	〃	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
20	C－269 北屋敷	六丁目字屋敷42-1　42-4	倉庫建築	39.75	〃	集落跡（奈良、平安時代）
21	C－102 南小泉	遠見塚一丁目42－41	共同住宅新築	164.30	〃	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
22	C－135 鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣145－5	住宅新築	123.39	〃	集落跡（古墳～中世、中世以降）
23	C－282 内手	袋原字内手71番地	私立保育園の増築	42.84	〃	集落跡（奈良、平安時代）
24	C－501 仙台城	川内追廻	住宅解体新築	44.71	〃	城館跡（南北朝～江戸時代）
25	C－104 郡山	郡山六丁目236－5	住宅新築	84.37	〃	官衙跡（古墳～奈良時代）
26	C－102 南小泉	遠見塚二丁目	倉庫及び個室新築	49.68	〃	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
27	C－102 南小泉	遠見塚一丁目26－27	住宅新築	100.31	〃	〃　〃
28	C－102 南小泉	遠見塚二丁目291－27	住宅解体新築	94.51	〃	〃　〃
29	C－102 南小泉	遠見塚一丁目10－4	住宅新築	91.23	〃	〃　〃
30	C－401 堤町瓦窯跡	堤町二丁目99	住宅増築	89.26	〃	窯跡（平安時代）
31	C－102 南小泉	古城三丁目202－12	住宅新築	168.73	〃	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
32	C－206 的場	郡山七丁目7－36	住宅増築	14.90	〃	集落跡（奈良、平安時代）
33	C－104 郡山	郡山二丁目116--27	〃	22.34	〃	官衙跡（古墳～奈良時代）
34	C－286 南ノ東	富田字八幡中10－2	〃	37.26	〃	集落跡（弥生、平安時代）
35	C－102 南小泉	遠見塚一丁目210－7	住宅新築	110.53	〃	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
36	C－223 福田町	福田町二丁目1115－1	〃	69.54	〃	集落跡（平安時代）
37	C－104 郡山	郡山三丁目6－15	店舗付住宅新築	46.98	〃	官衙跡（古墳～奈良時代）
38	C－102 南小泉	南小泉四丁目103－2	アパート建築	96.07	〃	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
39	C－501 仙台城	川内追廻	住宅解体新築	90.	〃	城館跡（南北朝～江戸時代）
40	C－104 郡山	郡山三丁目51－66	〃	34.02	〃	官衙跡（古墳～奈良時代）
41	C－509 小鶴城跡	小鶴字屋舗53	住宅増築	28.15	〃	城館跡（中世）
42	C－135 鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣1－6	〃	14.90	〃	集落跡（古墳～中世、中世以降）
43	C－141 菖蒲沢	鶴ヶ谷字菖蒲沢26-14、15	住宅建築	164.98	〃	集落跡（縄文、奈良、平安時代）
44	C－135 鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣73－3	住宅増築	7.78	〃	集落跡（古墳～中世、中世以降）
45	C－501 仙台城	川内	上水道配水管布設	1,260.00	〃	城館跡（南北朝～江戸時代）

整理番号	遺跡名	所在地	原因	開発面積	処置	遺跡の性格
46	C－102 南小泉	遠見塚一丁目42－42	共同住宅新築	106.11㎡	立ち会い	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
47	C－412 安養寺下瓦窯跡	東仙台六丁目142－2	学校寄宿舎建築	436.2	試掘	窯跡（平安時代）
48	C－240 萩ヶ丘	萩ヶ丘9－1	中学校舎建築	924.	立ち会い	集落跡（縄文、奈良、平安時代）
49	C－501 仙台城	川内追廻	住宅解体新築	37.26	〃	城館跡（南北朝～江戸時代）
50	C－170 山田団地東南	堤町二丁目1－20	共同住宅新築	99.11	〃	集落跡（平安～江戸時代）
51	C－104 郡山	郡山二丁目58－25	住宅新築	86.48	〃	官衙跡（古墳～奈良時代）
52	C－505 北目城跡	郡山四丁目107	〃	131.96	〃	城館跡（室町、江戸時代）
53	C－501 仙台城	川内3番9号	博物館新築		事前調査	城館跡（南北朝～江戸時代）
54	C－104 郡山	郡山二丁目37－25	住宅新築	80.29	〃	官衙跡（古墳～奈良時代）
55	C－225 鶴巻Ⅱ	福室字鶴巻二番46－1	倉庫建築	80.73	立ち会い	集落跡（平安時代）
56	C－224 鶴巻Ⅰ	福室字鶴巻二番29－1	住宅建築	82.55	〃	集落跡（平安時代）
57	C－223 福田町	福田町二丁目1150番	〃	74.51	〃	集落跡（平安時代）
58	C－501 仙台城	川内追廻	住宅解体新築	41.82	〃	城館跡（南北朝～江戸時代）
59	C－135 鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣75－5	住宅新築	52.16	〃	集落跡（古墳～中世、中世以降）
60	C－102 南小泉	遠見塚一丁目7－20	上水道配水管布設	266.00	〃	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
61	C－501 仙台城	川内追廻	住宅解体新築	39.74	〃	城館跡（南北朝～江戸時代）
62	C－135 鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣168-6 169-7	住宅新築	121.20	〃	集落跡（古墳～中世、中世以降）
63	C－102 南小泉	遠見塚二丁目330－1	〃	104.95	〃	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
64	C－301 富沢水田	富沢字清水	事務所内倉庫建築	146.15	試掘	水田跡（弥生、平安、平安以降）
65	C－108 上野	富田字上野中地内				集落跡（縄文、奈良、平安時代）
66	C－102 南小泉	遠見塚一丁目、二丁目地内	下水道管布設	893.00		集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
67	C－135 鴻ノ巣	岩切字三所北地内	下水道管布設	1,272.00	立ち会い	集落跡（古墳～中世、中世以降）
68	C－235 地蔵浦	六丁目字行屋前2-2、14-8	事務所内倉庫建築	623.00	〃	集落跡（中世）
69	C－213 戸ノ内Ⅰ	四郎丸字戸ノ内1番地先	上水道配水管布設	356.60	試掘	集落跡（古墳、奈良、平安時代）
70	C－102 南小泉	遠見塚二丁目295－8	住宅増築工事	68.93	立ち会い	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
71	C－301 富沢水田	富沢字教塚2-1、2、3	看板設置	25.00	〃	水田跡（弥生、平安、平安以降）
72	C－102 南小泉	古城三丁目29－2	住宅増築工事	10.13	〃	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
73	C－104 郡山	郡山一丁目194－7	住宅解体新築	46.37	〃	官衙跡（古墳～奈良時代）
74	C－113 安久東	西中田四丁目8－12	住宅新築	81.14	〃	集落跡(弥生、古墳、奈良、平安、中世、近世)
75	C－102 南小泉	南小泉字二ノ坪10－27	〃	166.82	〃	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
76	C－104 郡山	郡山一丁目12－3	住宅解体新築	60.46	〃	官衙跡（古墳～奈良時代）
77	C－301 富沢水田	富沢字清水39－5	店舗新築	23.18	〃	水田跡（弥生、平安、平安以降）
78	C－104 郡山	郡山四丁目8－9	住宅増築	14.00	〃	官衙跡（古墳～奈良時代）
79	C－104 郡山	郡山三丁目28－1	住宅解体新築	112.00	〃	〃 〃
80	C－501 仙台城	川内追廻	〃	69.74	〃	城館跡（南北朝～江戸時代）
81	C－419 陸奥国分寺跡	木ノ下二丁目63－10	住宅建築	63.30	〃	寺院跡（奈良、平安時代）
82	C－501 仙台城	川内追廻	住宅解体新築	46.17	〃	城館跡（南北朝～江戸時代）
83	C－102 南小泉	南小泉字伊藤屋敷49－24	店舗付住宅解体新築	119.28	〃	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
84	C－223 福田町	福田町二丁目26番	幼稚園遊戯室新築	283.80	〃	集落跡（平安時代）
85	C－135 鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣北6-3,6-4,6-6,10-4	住宅新築	72.87	〃	集落跡（古墳～中世、中世以降）
86	C－135 鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣89－1	〃	73.56	〃	〃 〃
87	C－501 仙台城	川内追廻	住宅解体新築	44.71	〃	城館跡（南北朝～江戸時代）
88	C－104 南小泉	古城三丁目10－11	住宅新築	69.93	〃	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
89	C－141 菖蒲沢	鶴ヶ谷字菖蒲沢25－11	住宅新築	71.21	〃	集落跡（縄文、奈良、平安時代）
90	C－445 長命荘窯跡	小松島三丁目15－2	賃貸アパート建築	483.04	試掘	窯跡（平安時代）
91	C－233 山口	富沢四丁目308－10	住宅新築	83.54	立ち会い	集落跡、水田跡（縄文時代～中世）
92	C－501 仙台城	川内追廻	〃	42.16	〃	城館跡（南北朝～江戸時代）

整理番号	遺跡名	所在地	原因	開発面積	処理	遺跡の性格
93	C－281 前沖北	中田町字北沖北23－8	住宅新築	90.80㎡	立ち会い	集落跡（古墳、奈良、平安時代）
94	C－104 郡山	郡山三丁目14－35	住宅増築	28.15	〃	官衙跡（古墳～奈良時代）
95	C－202 泉崎浦	富沢字泉崎24－1	賃貸アパート建築	172.18	〃	集落跡、水田跡(縄文、古墳、平安、近世)
96	C－501 仙台城	川内1番地	神社改築	867.38	〃	城館跡（南北朝～江戸時代）
97	C－102 南小泉	古城三丁目1－30	住宅解体新築	70.18	〃	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
98	C－197 六反田	大野田字六反田10番地5	小学校給食棟建設	207.00	事前調査	集落跡（縄文、弥生、古墳、奈良、平安、江戸時代）
99	C－501 仙台城	川内追廻	住宅新築	78.66	立ち会い	城館跡（南北朝～江戸時代）
100	C－509 小鶴城跡	小鶴字屋舗47－13	共同住宅建築	141.40	〃	城館跡（中世）
101	C－208 後河原	中田町字北44－3	事務所倉庫付住宅建築	313.00	〃	集落跡、水田跡（奈良、平安）
102	C－301 富沢水田	長町字宮田17番4	店舗新築	608.00	試掘	水田跡（弥生、平安、平安以降）
103	C－301 富沢水田	富沢字中谷地30-1、下ノ浦内32	住宅新築	157.21	〃	〃 〃
104	C－104 郡山	郡山三丁目204－15	住宅増築	30.36	立ち会い	官衙跡（古墳～奈良時代）
105	C－104 郡山	郡山五丁目302－3	住宅新築	126.86	〃	〃 〃
106	C－135 鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣154－1	建売住宅新築3棟分	133.65	〃	集落跡（古墳～中世、中世以降）
107	C－007 砂押古墳	砂押町108－2	賃貸アパート建築	109.42	〃	古墳（古墳時代）
108	C－301 富沢水田	富沢字泉崎前27-1、27-2、10-1	店舗建築	624.00	〃	水田跡（弥生、平安、平安以降）
109	C－104 郡山	郡山六丁目236－5	店舗増築	32.01	〃	官衙跡（古墳～奈良時代）
110	C－102 南小泉	古城三丁目4－34	住宅新築	88.61	〃	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
111	C－102 南小泉	古城三丁目1－1	住宅増築	33.12	〃	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
112	C－504 茂ヶ崎城	向山四丁目30－20	擁壁復旧工事		〃	城館跡（南北朝～室町時代）
113	C－501 仙台城	川内追廻	住宅解体新築	46.37	〃	城館跡（南北朝～江戸時代）
114	C－511 若林城	古城二丁目3－1	倉庫新築	850.00	〃	城館跡（戦国～江戸時代）
115	C－301 富沢水田	長町三丁目3番地内	銀行建設	208.70	試掘	水田跡（弥生、平安、平安以降）
116	C－223 福田町田	福田町二丁目14－1	住宅増築工事	27.30	立ち会い	集落跡（平安時代）
117	C－135 鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣143-8、144-7	倉庫付住宅解体新築	222.73	〃	集落跡（古墳～中世、中世以降）
118	C－104 郡山	郡山三丁目30－4	住宅増築	72.45	〃	官衙跡（古墳～奈良時代）
119	C－102 南小泉	古城三丁目3－24	車庫新築	19.87	〃	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
120	C－505 北目城	郡山四丁目5－10	作業場新築	25.92	〃	城館跡（室町、江戸時代）
121	C－501 仙台城	川内追廻	住宅解体新築	56.74	〃	城館跡（南北朝～江戸時代）
122	C－102 南小泉	古城三丁目12－2	住宅増築	59.62	〃	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
123	C－104 郡山	郡山三丁目128－57	住宅新築	83.64	事前調査	官衙跡（古墳～奈良時代）
124	C－102 南小泉	遠見塚二丁目231-13、14	〃	110.34	立ち会い	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
125	C－132 上野山	鈎取字上野山10－140	〃	97.60	〃	集落跡（縄文時代）
126	C－270 砂押Ⅰ	沖野字神柵地内	上水道配水管布設	48.00	試掘	集落跡（古墳、奈良、平安時代）
127	C－135 鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣66-3、4、5	住宅増築	17.83	立ち会い	集落跡（古墳～中世、中世以降）
128	C－102 南小泉	遠見塚二丁目41-6番地先	上水道配水管布設	211.88	〃	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
129	C－300 下ノ内浦	富沢字下谷地5－2	住宅新築	63.96	〃	集落跡（弥生、奈良、平安時代）
130	C－108 上野	富田字上野中28－4	住宅増築	43.05	〃	集落跡（縄文、奈良、平安時代）
131	C－224 鶴巻Ⅰ	福室字鶴巻一番39	住宅新築	193.15	〃	集落跡（平安時代）
132	C－266 人来田B	茂庭字人来田西8-13外	事務所付倉庫新築	6,757.45	試掘	集落跡（古墳、平安時代）
133	C－301 富沢水田	富沢字泉崎前29－1	住宅新築	105.68	立ち会い	水田跡（弥生、平安、平安以降）
134	C－301 富沢水田	長町字砂押18－5	〃	108.57	〃	〃 〃
135	C－301 富沢水田	富沢字一本杉28－5	〃	114.27	〃	〃 〃
136	C－301 富沢水田	長町七丁目301－18	共同住宅及び貸事務所新築	94.75	〃	〃 〃
137	C－102 南小泉	遠見塚三丁目8－17	倉庫兼事務所新築	37.77	〃	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
138	C－501 仙台城	川内	排水槽設置	55.00	試掘	城館跡（南北朝～江戸時代）
139	C－501 仙台城	川内追廻無番地	住宅解体新築	41.40	立ち会い	〃 〃

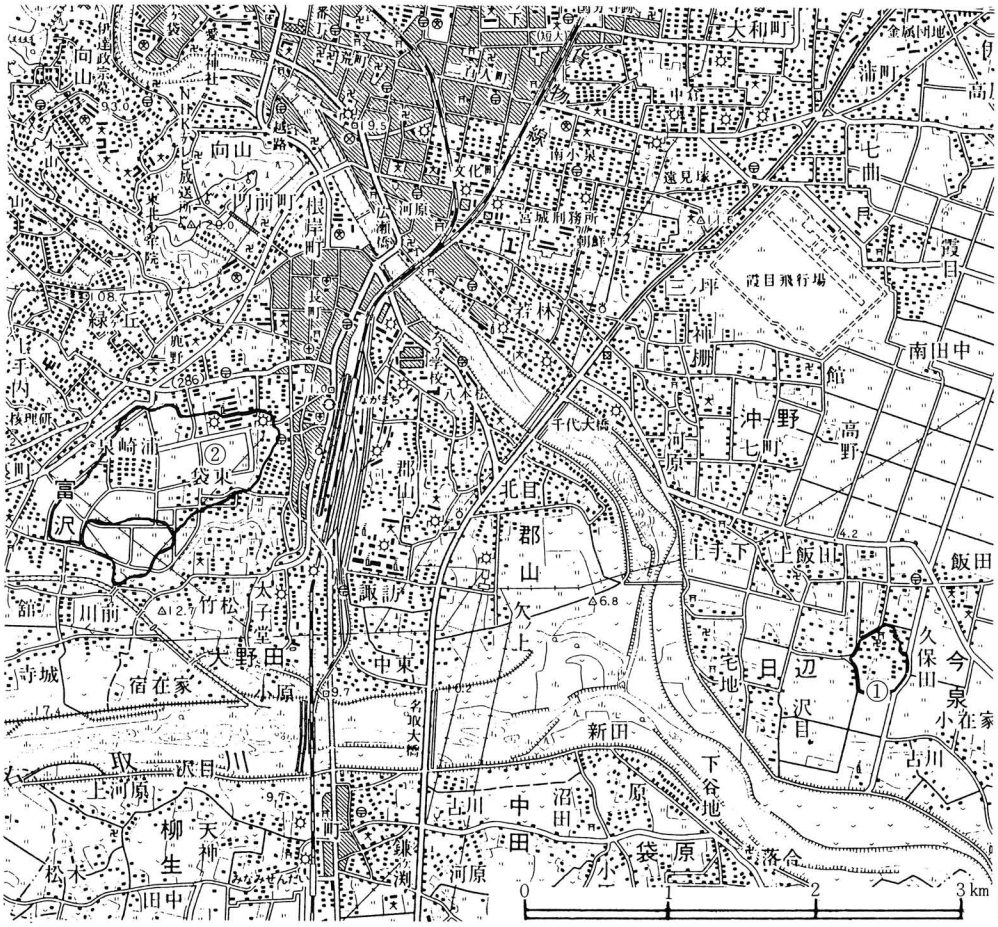
整理番号	遺跡名	所在地	原因	開発面積	処置	遺跡の性格
140	C－234 明屋敷	六丁目字庚田上14	事務所付倉庫新築	2,348.86㎡	立ち会い	集落跡（平安時代）
141	C－234 明屋敷	六丁目字北屋敷前24	貸事務所兼倉庫新築	132.40	〃	〃 〃
142	C－501 仙台城	川内無番地	テニスコート新設	2,500.00	〃	城館跡（南北朝～江戸時代）
143	C－501 仙台城	川内１－１	石垣変位計、落石防護柵	230.00	〃	〃 〃
144	C－501 仙台城	川内１－１	公園売店、便所、下水道管布設	126.90	〃	〃 〃
145	C－102 南小泉	南小泉字霞目西79	送信所建設	50.05	試掘	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
146	C－104 郡山	八本松二丁目78－22	住宅新築	60.59	立ち会い	官衙跡（古墳～奈良時代）
147	C－301 富沢水田	富沢字教塚４	共同住宅新築	184.01	〃	水田跡（弥生、平安、平安以降）
148	C－270 砂押Ⅰ	沖野字神柵地内	都市ガス本管布設	40.00	〃	集落跡（古墳、奈良、平安時代）
149	C－154 原	西多賀三丁目２－15	住宅増築	86.95	〃	集落跡（弥生、古墳、平安時代）
150	C－102 南小泉	南小泉字村東80－16	〃	18.87	〃	集落跡（弥生、古墳、奈良平安時代）
151	C－301 富沢水田	泉崎二丁目19－３	貸家新築４棟	162.4	〃	水田跡（弥生、平安、平安以降）
152	C－202 泉崎浦	泉崎一丁目18－14	店舗付住宅新築	142.02	〃	集落跡、水田跡（縄文、古墳、平安、近世）
153	C－101 燕沢	燕沢東三丁目508－1	住宅新築	110.54	〃	集落跡、寺院跡、官衙跡（縄文、弥生、古墳、奈良、平安時代）
154	C－225 鶴巻Ⅱ	福室字弁当一番	倉庫建築	1,572.77	〃	集落跡（平安時代）
155	C－526 日辺館跡	日辺字田中43	住宅の解体、新築	74.07	〃	城館跡（室町時代）
156	C－224 鶴巻Ⅰ	福室字鶴巻１番	住宅建築	39.33	〃	集落跡（平安時代）
157	C－235 地蔵浦	六丁目字行屋前12番地	住宅新築	46.37	〃	集落跡（中世）
158	C－102 南小泉	南小泉四丁目20－５	車庫新築	17.43	〃	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
159	C－306 青葉山B	荒巻字青葉	大学図書館建築	1,230.	試掘	集落跡（後期旧石器時代）
160	C－102 南小泉	南小泉四丁目82－６	住宅新築	62.10	立ち会い	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
161	C－104 郡山	郡山六丁目212－２	宅地造成に伴う擁壁建設	317.	試掘	官衙跡（古墳～奈良時代）
162	C－135 鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣33－17	作業場併用住宅増築	144.46	立ち会い	集落跡（古墳～中世、中世以降）
163	C－301 富沢水田	鹿野三丁目218－13	住宅新築	95.09	〃	水田跡（弥生、平安、平安以降）
164	C－104 郡山	郡山六丁目236－２	〃	79.36	〃	官衙跡（古墳～奈良時代）
165	C－108 上野	富田字上野西37－１	独身寮建設	138.29	試掘	集落跡（縄文、奈良、平安時代）
166	C－104 富沢水田	泉崎一丁目14－１	貸家新築	49.6860×3棟	立ち会い	水田跡（弥生、平安、平安以降）
167	C－104 富沢水田	富沢字一本杉16－３－９	倉庫建築	21.8595	〃	水田跡 〃
168	C－104 富沢水田	鹿野三丁目218－９	住宅新築	99.14	〃	〃 〃
169	C－104 富沢水田	富沢字泉崎浦27-4、27-6	貸事務所建設	87.66	〃	〃 〃
170	C－104 郡山	郡山六丁目212－２	住宅新築	86.95	事前調査	官衙跡（古墳～奈良時代）
171	C－224 鶴巻Ⅰ	福室字鶴巻一番5　111-1 112-1 岡田字小広田16－2　17－1 仮換地112B-23L 112B-23-1L	宅地造成に伴う下水管埋設及び側溝埋設	1,344.28	立ち会い	集落跡（平安時代）
172	C－504 茂ヶ崎城	長町字茂ヶ崎３番地先	電柱建替 支線取替工事	電柱巾 800mm 長さ1200mm 深さ2500mm 支線巾 500mm 長さ1000mm 深さ 800mm	〃	城館跡（南北朝～室町時代）
173	C－419 陸奥国分寺	木の下三丁目13－16	電柱建替	0.35	〃	寺院跡（奈良～平安時代）
174	C－504 茂ヶ崎城	長町茂ヶ崎	電柱建替 支線取替支柱設付工事	33.2	〃	城館跡（南北朝～室町時代）
175	C－104 郡山	郡山三丁目104－27	住宅新築	64.19	〃	官衙跡（古墳～奈良時代）
176	C－108 上野	鈎取新田町20－５	〃	58.79	〃	集落跡（縄文、奈良、平安時代）
177	C－208 後河原	中田字前沖地内	用水路工事	126.0	試掘	集落跡、水田跡（奈良、平安）
178	C－301 富沢水田	富沢字泉崎浦19－10	住宅新築	102.94	立ち会い	水田跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
179	C－104 郡山	郡山六丁目203－８	幼稚園舎の増築	141.02	試掘	官衙跡（古墳～奈良時代）
180	C－102 南小泉	古城三丁目１－30	住宅新築	89.43	立ち会い	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
181	C－268 長町南	長町南二丁目９番地先	都市ガス本管敷設工事	42.0	〃	集落跡（奈良、平安時代）
182	C－108 上野	富田字上野中19－24	住宅増築	45.54	〃	集落跡（縄文、奈良、平安時代）
183	C－104 郡山	郡山三丁目13－３	住宅の解体新築	75.68	〃	官衙跡（古墳～奈良時代）
184	C－301 富沢水田	富沢字清水40－１	賃貸事務所建築	226.00	試掘	水田跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）

整理番号	遺跡名	所在地	原因	開発面積	処置	遺跡の性格
185	C－301 富沢水田	長町七丁目301－5	事務所建設	111.52㎡	立ち会い	水田跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
186	C－301 富沢水田	富沢一丁目12－26	病院増築	56.46	試掘	〃　〃
187	C－135 鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣33－12	住宅新築	65.61	立ち会い	集落跡（古墳～中世、中世以降）
188	C－278 籠ノ瀬	郡山七丁目208－9	共同住宅新築	116.22	〃	集落跡（古墳、奈良、平安時代）
189	C－501 仙台城	川内追廻住宅591号	住宅の解体新築	90.28	〃	城館跡（南北朝～江戸時代）
190	C－185 長町清水	大野田字清水地内	市道側溝	80.00	〃	古墳？
191	C－301 富沢水田	長町字鳥居原34－6	住宅の新築	61.07	〃	水田跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
192	C－192 土樋	土樋一丁目10番8号	住宅の解体、新築	81.98	〃	集落跡（縄文時代晩期）
193	C－301 富沢水田	泉崎一丁目24番9号	共同住宅の新築	127.61	〃	水田跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
194	C－104 郡山	郡山二丁目5－20	個人住宅増築	8.82	〃	官衙跡（古墳～奈良時代）
195	C－235 地蔵浦	六丁目字行屋前11－1	ホテル新築	約1,050.00	試掘	集落跡（中世）
196	C－104 郡山	郡山五丁目6－30	住宅新築	78.35	立ち会い	官衙跡（古墳～奈良時代）
197	C－511 若林城	古城二丁目3－1	作業所新築	220.00	〃	城館跡（戦国～江戸時代）
198	C－294 山田条理遺構	山田字田中前48－8	住宅改築	65.80	〃	条里跡
199	C－234 明屋敷	六丁目字庚田南17－2他	宅地造成	1,895.55	試掘	集落跡（平安時代）
200	C－501 仙台城	川内追廻無番地	住宅解体、新築	48.61	立ち会い	城館跡（南北朝～江戸時代）
201	C－108 上野	富田字上野西49	排水管布設	42.5	〃	集落跡（縄文、奈良、平安時代）
202	C－108 上野	富田字上野西7、11	〃	82.00	試掘	〃　〃
203	C－104 郡山	郡山四丁目103－20	住宅新築	73.22	立ち会い	官衙跡（古墳～奈良時代）
204	C－102 南小泉	遠見塚一丁目42－32	住宅増改築	56.21	〃	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
205	C－213 戸ノ内Ⅰ	四郎丸字明神92	納屋新築	90.41	〃	集落跡（古墳、奈良、平安時代）
206	C－234 明屋敷	六丁目字北屋敷17－2	工場新築	187.85	〃	集落跡（平安時代）
207	C－234 明屋敷	六丁目字本新田角34番地	工場新築	286.54	試掘	〃　〃
208	C－224 鶴巻Ⅰ	福室字鶴巻1番29－2	住宅新築	103.39	立ち会い	〃　〃
209	C－102 南小泉	南小泉四丁目95－1	共同住宅新築	242.82	試掘	集落跡（弥生、古墳、奈良、平安時代）
210	C－224 鶴巻Ⅰ	福室字鶴巻1番74－2 113－1、115－1、115－2	〃	197.59	立ち会い	集落跡（平安時代）
211	C－104 郡山	郡山三丁目14－16	住宅新築	134.32	試掘	官衙跡（古墳～奈良時代）
212	C－235 地蔵浦	六丁目字行屋前12番地	鳩舎新築	28.98	立ち会い	集落跡（中世）
213	C－510 南目城	南目館1番	病院管理棟建設	231.27	試掘	城館跡（中世）
214	C－108 上野	富田字上野地内	市道側溝工事	2,300	事前調査	集落跡（縄文、奈良、平安時代）
215	C－294 山田条里	富沢川前浦47－4他	送電線路に伴う鉄塔建設		試掘	条里跡

Ⅱ. 調　査　報　告

1. 調　査　事　項

遺跡名 / 事項	① 今　泉　城　跡（C－507）	② 富沢水田遺跡（C－301）
所　在　地	仙台市今泉字久保田85－3	仙台市長町南四丁目60
申請者住所	仙台市今泉字久保田46	仙台市五橋三丁目2－1
申請者氏名	山田菊雄	東北電気通信局長　佐藤義雄
開発内容	宅地造成	電話ケーブル布設工事
対象面積	928㎡	499㎡
調査面積	28㎡	46㎡
調査期間	昭和58年6月15日～6月18日	昭和58年6月17日、7月3日～7月19日
調査主体	仙台市教育委員会	
調査担当	仙台市教育委員会社会教育課文化財調査係	
担当職員	柳沢・金森	佐藤　隆・金森・柳沢



遺　跡　位　置　図

1．今　泉　城　跡

1．遺跡の立地と現状

今泉城跡は、仙台市の東南部、仙台市今泉字久保田に位置している。遺跡は沖積平野の低湿地の微高地上に立地し、標高は約 3.5mである。本遺跡は中世の館跡として周知されていたが、昭和54年、56年の調査で、鎌倉中期～室町初期と室町後半～江戸時代初頭と異った位置に城館が確認されるとともに、近世、古墳、弥生時代の遺構・遺物・縄文時代の遺物が検出され、現在では縄文時代から近世の遺跡＝今泉遺跡（今泉城跡を含む）として周知されている。

2．調査に至る経過

貸家住宅建設に伴う基礎部分の掘削深度が、遺構を破壊する恐れがあるために、住宅建設予定箇所に、約４×７ｍの調査区を設定し、発掘調査を実施した。その結果、基礎部分が盛土および耕作土中におさまることが確認されたため、調査は遺跡の概要をつかむ遺構確認程度に留め、完掘は行わなかった。

3．基　本　層　序

Ⅰ～Ⅸ層まで確認した。このうちⅥ～Ⅸ層は１号溝跡の壁面観察による。各層は水平堆積を成す。

第Ⅰ層―盛土。第Ⅱ層―耕作土。第Ⅲ層―シルトないし粘土質シルト層。炭化粒・粘土粒を含む。この層の上面で遺物・遺構が確認された。第Ⅳ層―シルト層。炭化粒・酸化鉄を含む。第Ⅴ層―粘質シルト層。管状酸化鉄を含む。この層の上面で遺物・遺構が確認された。第Ⅵ層―粘土層。酸化鉄を含む。第Ⅶ層―粘土層。酸化鉄を少量含む。第Ⅷ層―シルト質粘土層。グライ化が進んでいる。第Ⅸ層―シルト質粘土層。グライ化がかなり進んでいる。

4．発　見　遺　構

調査区内で検出された遺構は、溝跡１条、ピット10個、他である。

溝跡（１号溝跡）は、第Ⅲ層上面で調査区の東壁にそって検出された。断面形は逆台形状をなすが、検出面下50cm以下の壁面は急勾配になる特徴がある。堆積土は８枚に大別され、さらにそれらは45枚に細別された。堆積土中からは、陶器・石製品・植物遺存体等が出土した。この溝跡の性格は、水の動きが停滞した状況を示す堆積土の土性、整形された溝壁面から、土地を区画した水路と考えられる。

ピットは第Ⅲ層上面で１個、第Ⅴ層上面で９個確認した。ピット２・３では柱痕跡を確認した。

その他の遺構として、調査区の西南部で、遺構の可能性があるやや不鮮明なプランを数箇所確認した。

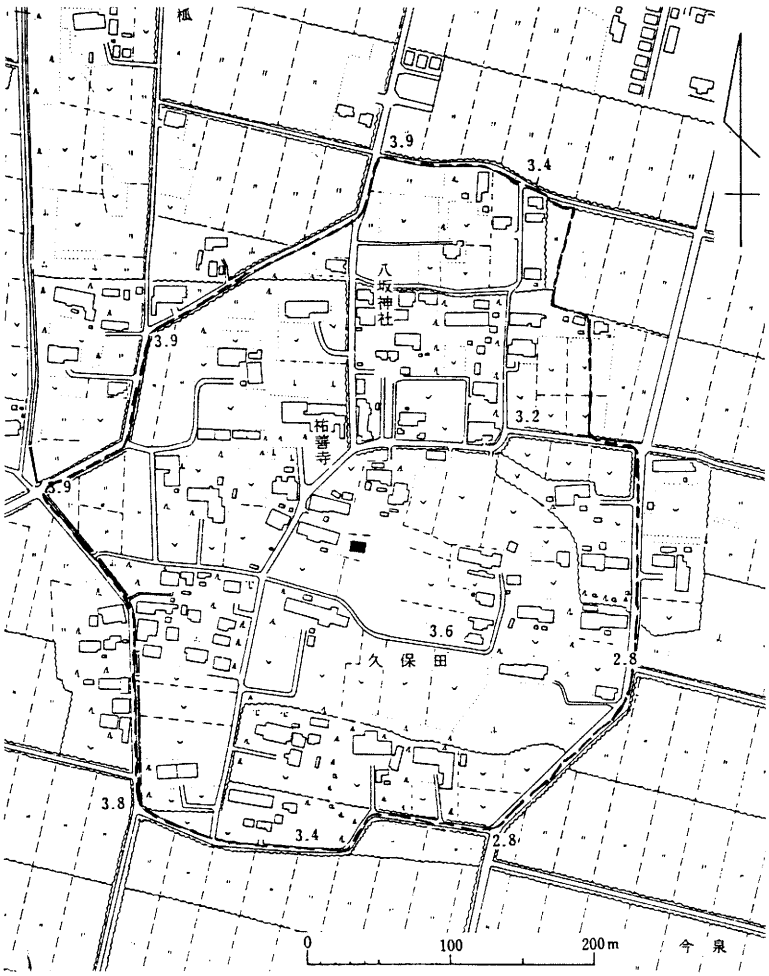
5．出　土　遺　物

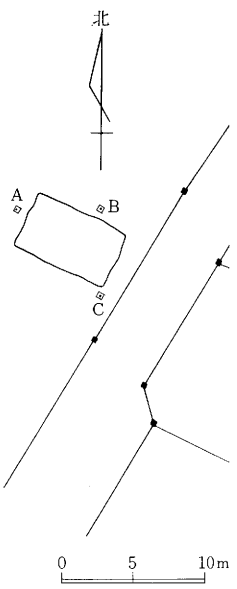
Ⅲ層上面から、土師器・須恵器・中世陶器・近世陶器が24点、Ⅴ層上面から土師器が５点出土した。又、ピット１・２・３の各埋土中から、土師器が各１点ずつ出土し、１号溝からは、須恵器、瓦が各１点、中世陶器が２点出土した。

6．ま　と　め

今回の調査で検出された遺構は、出土遺物の内容、遺構の検出層位から、中世から近世のものと考えられる。

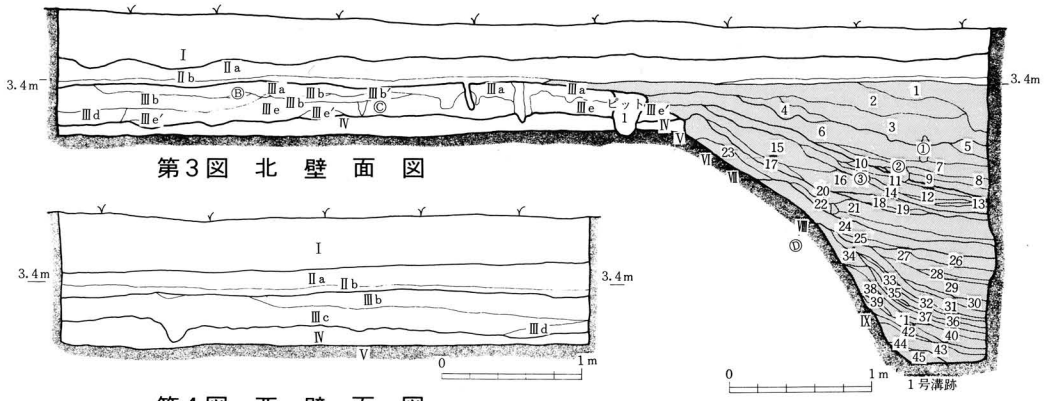
又、遺構の検出状況では、調査区の東壁にそって、幅２ｍ以上と推定される溝が南東方向に１条検出されたが、それは昭和　年調査の２号溝に対応する可能性があるものの、調査区に制限されて、確証は得られなかった。ただこの溝を境に、西側部の方が、検出された遺構の密度が稀薄である特徴が認められた。





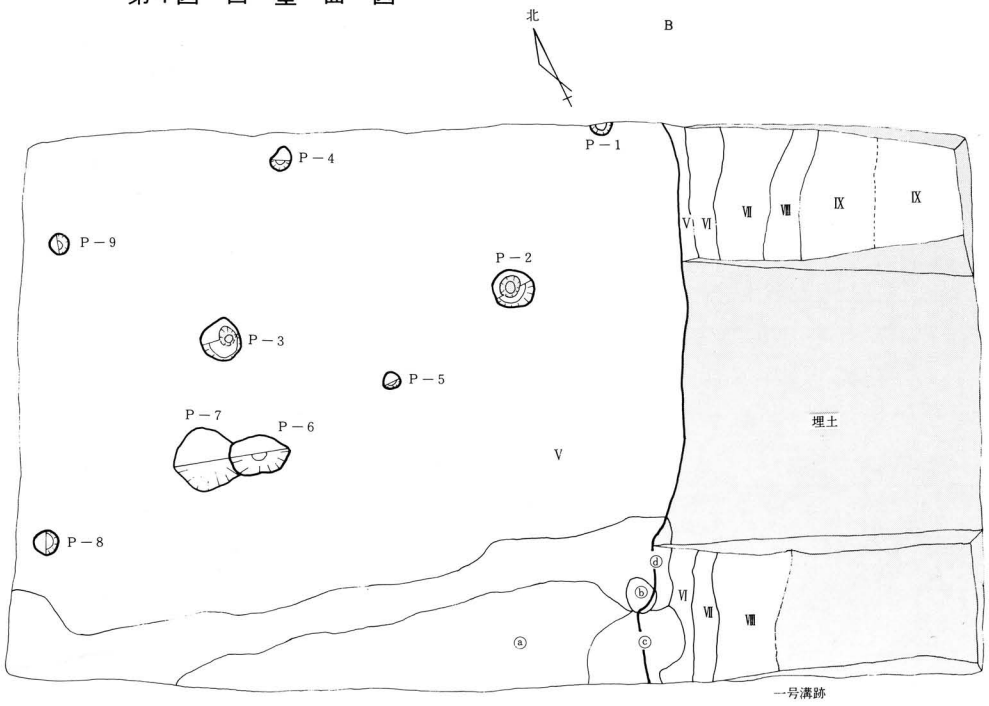
第２図
調査区位置図

第１図
調査区設定図



第3図　北　壁　面　図

第4図　西　壁　面　図



第5図　遺　構　検　出　状　況

第1表　基本層序・註記表

層　No.	土　　色	土　　性	そ　　の　　他
Ⅰ	10YR5/6　黄褐色	砂質シルト	
Ⅱa	10YR2/2　黒褐色	シルト	耕作土、盛土により圧縮され固くしまっている。
Ⅱb	10YR4/2　灰黄褐色	シルト	
Ⅲa	10YR5/4　にぶい黄褐色	シルト	遺物、炭化粒、黄色粘土粒を少量含む。
Ⅲb	10YR5/2　灰黄褐色	シルト	炭、炭化粒、淡黄色粘土粒を含む。
Ⅲb′	10YR5/6　黄褐色	シルト	炭化粒を含む。
Ⅲc	10YR6/4　にぶい黄橙色	シルト	まばらに炭化粒を含む。この層の下位に粘土粒を含む。
Ⅲd	10YR5/4　にぶい黄橙色	粘土質シルト	炭化粒、黄色、淡黄色の粘土粒を少量含む。
Ⅲe	10YR5/6　黄褐色	粘土質シルト	黄橙色粘土塊をまばらに、淡黄色粘土粒、炭化粒を少量含む。
Ⅲe′	10YR6/4　にぶい黄橙色	シル	炭化粒を少量含む。

層 No.	土　　色	土　　性	そ　　の　　他
Ⅳ	10YR4/3　にぶい黄褐色	シルト	炭化粒、淡白色シルト粒、酸化鉄を含む。
Ⅴ	10YR4/4　褐色	粘土質シルト	上面に管状酸化鉄が分布。
Ⅵ	Hue 7.5YR7/8 黄橙色	粘土	
Ⅶ	10YR7/8　黄橙色	粘土	
Ⅷ	Hue 2.5Y　淡黄色	シルト質粘土	
Ⅸ	5G　5/1　淡黄色	シルト質粘土	
Ⓐ	10YR6/4　にぶい黄橙色	シルト	淡黄色シルト粒を含む。
Ⓑ	10YR4/6　褐色	シルト	炭化粒を含む。
Ⓒ	10YR3/3　暗褐色	シルト	
Ⓓ	10YR4/4　褐色	シルト	炭化粒を少量含む。

Ⅲ層はⅣ層に比べて炭化粒、粘土塊を多く含む。　Ⅳ層はⅢ層に比べてよりしまっている。

第２表　第１号溝・埋土註記表

層 No.	土　　色	土　　性	そ　　の　　他
1	10YR6/6　明黄褐色	シルト	淡黄褐色、黄色の粘土粒を含む
2	10YR5/6　黄褐色	シルト	炭化粒を含む
3	10YR5/6　黄褐色	シルト	２層より粘性強く、炭化粒・淡白色粘土粒をわずかに含む
4	10YR7/6　明黄褐色	シルト	淡黄褐色・黄色の粘土塊を含む
5	10YR4/6　にぶい黄橙色	シルト	やや粘性がある、炭化粒を少量含む
6	10YR4/4　褐色	粘土質シルト	１～５層に比べ、炭化粒を多く含む
7	10YR4/4　褐色	粘土質シルト	やや灰色味をおびる。６層より粘性強い、炭の塊を含む部分がある
8	10YR5/3　にぶい黄褐色	粘土質シルト	７層よりもより灰色味をおび、粘性が強くなる
9	10YR7/3　にぶい黄橙色	粘土質シルト	淡白色粒を含み、全体的にやや白っぽく、炭化物を少量含む
10	10YR3/3　暗褐色	粘土質シルト	炭化物を含み、全体的に黒味をおびる
11	10YR5/2　灰黄褐色	粘土質シルト	炭化粒、白色シルト、白色粘土粒を含み、全体的に灰色味をおびる
12	10YR5/3　にぶい黄褐色	シルト	酸化鉄粒、マンガン粒を含みかたくしまっている。炭化粒も少量含む
13	10YR6/2　灰黄褐色	粘土質シルト	白色シルト粒・炭化粒を含む
13′	10YR6/2　灰黄褐色	粘土質シルト	白色シルト粒を含む。炭化物を含む
14	10YR3/1　黒褐色	シルト	炭・炭化粒を含み全体的に黒味をおびる。骨片を含む
15	10YR8/1　灰白色	シルト	酸化鉄粒を極少量含む
16	10YR7/2　にぶい黄橙色	シルト	下位に酸化鉄粒・マンガン粒を含む
17	10YR7/3　にぶい黄橙色	シルト	酸化鉄粒を極少量含む
18	10YR6/6　明黄褐色	シルト	酸化鉄粒を多量にマンガン粒もやや多く含む。12層の土性と類似している。
19	10YR6/2　灰黄褐色	粘土	淡白色シルト粒を含む部分がある。
20	10YR4/2　灰黄褐色	粘土	酸化鉄粒を含む有機物（クルミ、木片、他）
21	10YR5/2　灰黄褐色	シルト	粘性がある。酸化鉄粒、マンガン粒、炭化粒を含む
22	10YR7/13　にぶい黄橙色	粘土	酸化鉄粒、マンガン粒を含む。有機物は含まない
23	10YR5/4　にぶい黄橙色	シルト	酸化鉄粒、マンガン粒を含む
24	10YR4/2　灰黄褐色	粘土	酸化鉄粒、有機物（木片等）を含む
25	10YR3/2　黒褐色	粘土	酸化鉄粒、淡白色粘土粒を含む
26	2.5GY4/1　暗オリーブ灰	粘土	
27	7.5GY3/1　暗緑灰色	粘土	有機物を含む
28	5GY4/1　暗オリーブ灰色	粘土	〃
29	7.5GY3/1　暗緑灰色	粘土	〃
30	Hue10Y3/1オリーブ黒色	粘土	〃
31	Hue10Y3/1オリーブ黒色	粘土	酸化鉄粒を含む。有機物を含む
32	5GY4/1　暗オリーブ灰色	粘土	有機物を含む
33	Hue3/1　オリーブ黒色	粘土	〃
34	10YR3/3　暗褐色	粘土	酸化鉄粒を含む。有機物を含む
35	Hue10Y3/1オリーブ黒色	粘土	ややシルトっぽい。有機物を含む
36	Hue 5Y4/2灰オリーブ色	粘土	有機物を含まない
37	Hue10Y4/2オリーブ灰色	粘土	有機物を含む
38	Hue10Y2/1黒色	粘土	ややシルトっぽい。有機物を含む
39	Hue10Y2/1黒色	粘土	〃　　〃
40	Hue10Y2/1黒色	粘土	有機物を含む
41	Hue10Y4/1灰色	粘土	〃

層 No.	土　　色	土　　性	そ　　の　　他
42	Hue10Y4/1 灰色	粘 土	有機物を含む
43	10G3/1 緑黒色	粘 土	〃
44	Hue10Y2/1 黒色	粘 土	〃
45	10G3/1 暗緑灰色	粘 土	ややシルトっぽい。有機物を含む
① ②・③	3層と6層を半々に含むブロック 3層のブロック		

第3表　ピット埋土・註記表

ピット No.	土　　色	土　　性	そ　　の　　他
1 土	2.5 Y5/3 黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄粒を含む
2 (埋 土)	10YR4/4 褐色	〃	
2 (柱痕跡)	10YR4/3 にぶい黄褐色	〃	
3 (埋 土)	10YR4/3 にぶい黄褐色	〃	
3 (柱痕跡)	10YR3/3 暗褐色	〃	
4	10YR4/3 にぶい黄褐色	〃	酸化鉄粒を少量含む
5	10YR3/4 暗褐色	〃	炭化物を少量含む
6	10YR4/2 灰黄褐色	〃	酸化鉄粒を多量に含む
7	10YR2/1 黒色	〃	酸化鉄粒を多量に含む
8	10YR4/2 灰黄褐色	〃	酸化鉄粒を少量含む
9	10YR4/2 灰黄褐色	〃	酸化鉄粒を少量含む

ピット2・3は形状・埋土・柱痕跡等類似している。

第4表　土色変化部分註記表

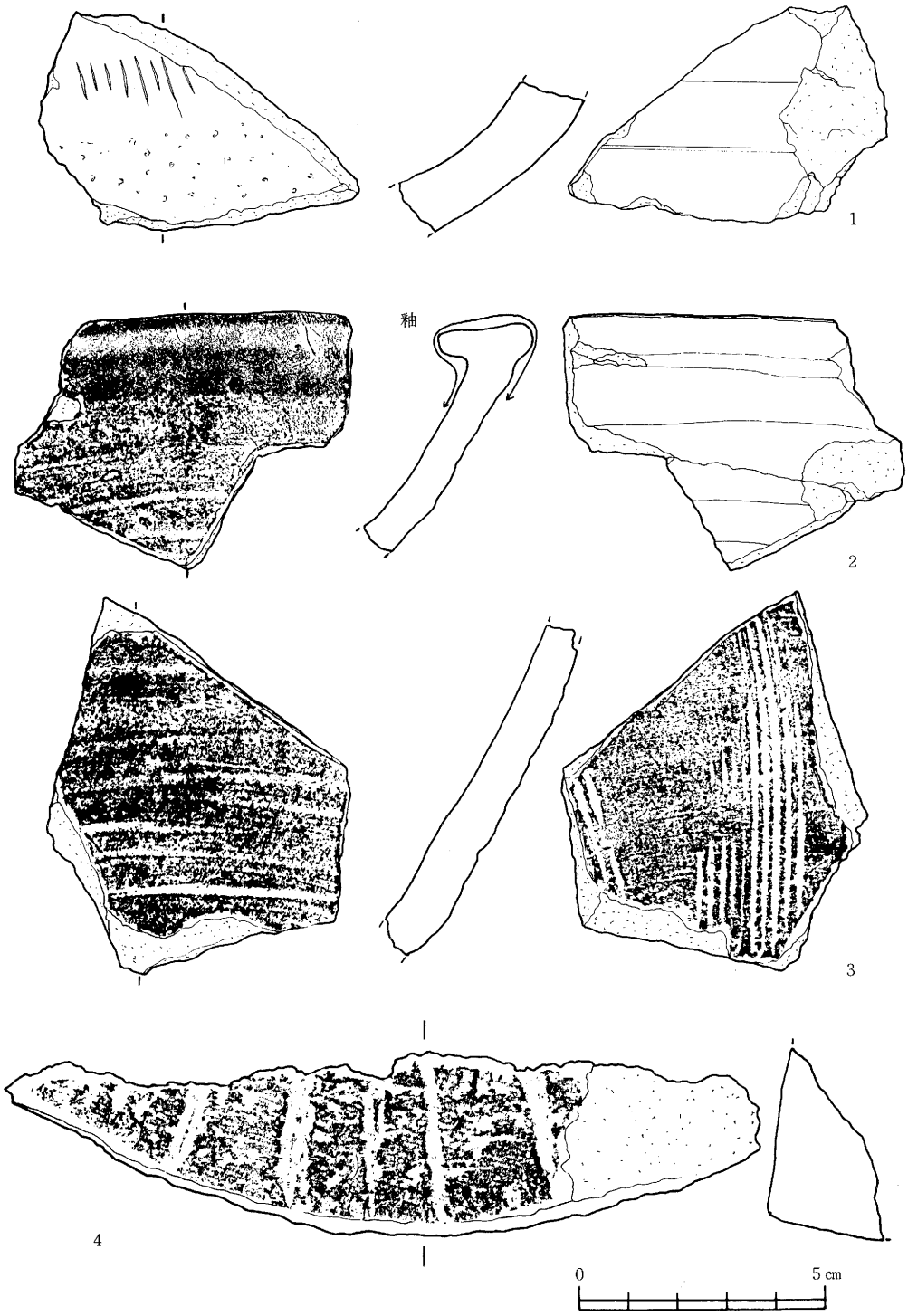
No.	土　　色	土　　性	そ　　の　　他
A	10YR5/4 にぶい黄褐色	シ ル ト	酸化鉄粒を含むV層に比べて白っぽい
B	10YR5/2 灰黄褐色	〃	酸化鉄粒を含む。D層に比べてしまりがない
C	10YR4/4 褐色	〃	酸化鉄粒を含む。V層に比べて白っぽい
D	10YR3/4 暗褐色	〃	酸化鉄粒を含む。V層に比べて黒っぽく土性はより粗である

第5表　基本層序、出土遺物集計観察表

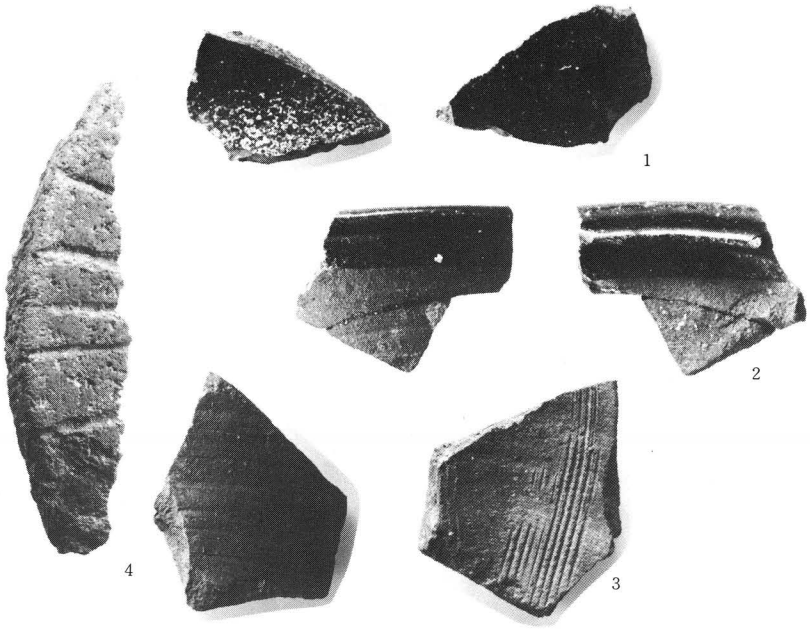
基 本 層 序 名	名　　称	部　位	点数	遺物番号	図版番号	備　　考
Ⅲ 層 上 面	土 師 器	体 部	19	1		
	須 恵 器(甕)	〃	1			
	中世陶器(摺鉢)	〃	1		第6図3	常滑
	〃 (〃)	口縁部	1		第6図2	常滑
	近世陶器(不明)	体 部	2			
V 層 上 面	土 師 器	体 部	4	2		
	〃	口縁部	1			

第6表　遺構出土遺物集計観察表

遺　構　名	層 序 名	名　　称	部　位	点数	遺物番号	図版番号	備　　考
ピット 1	埋 土 中	土 師 器	体 部	1	5		
〃 2	柱 痕 部	〃	〃	1	6		
〃 3	埋 土 中	〃	〃	1	10		
1 号 溝	6	須 恵 器 (甕)	〃	1	4		
	6	中世陶器 (甕)	肩 部	1	8	第6図1	
	9	石 臼		1	9	第6図4	
	11	瓦		1	14		

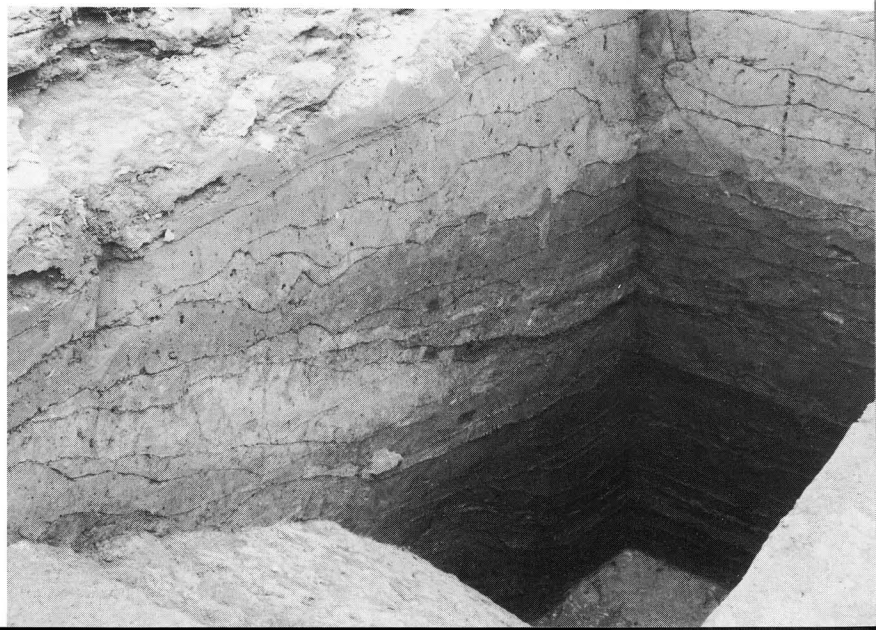


第6図　出　土　遺　物



1．出　土　遺　物

2．遺構検出状況



3．１号溝検出状況

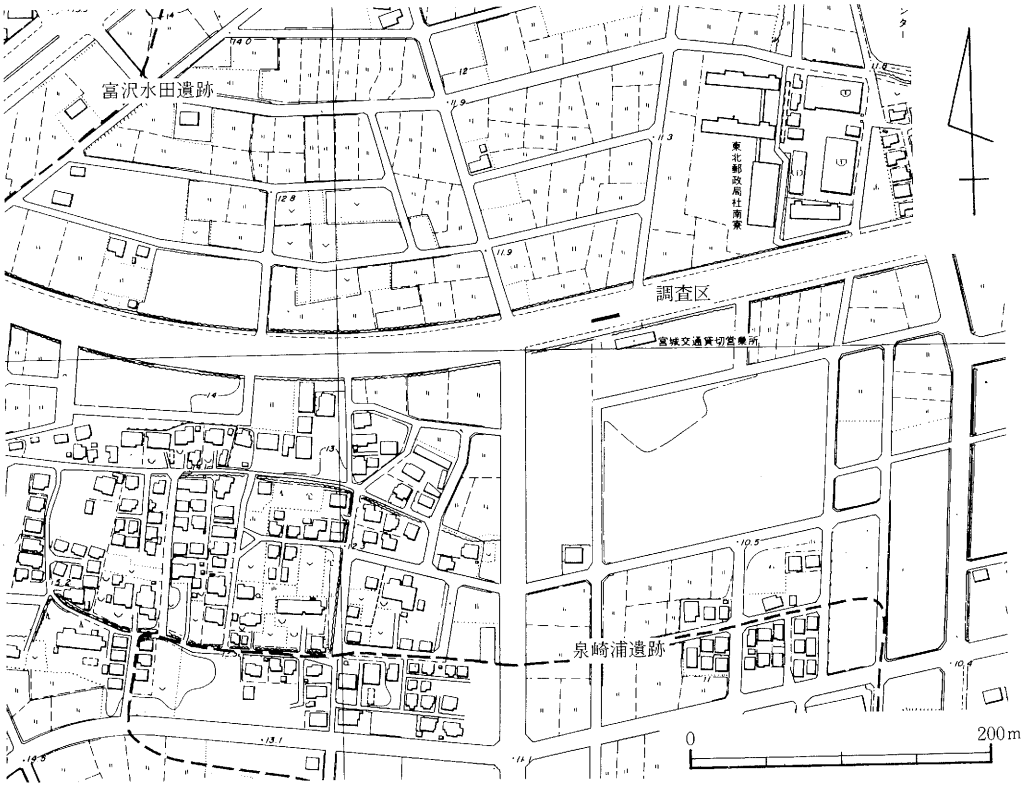
2．富沢水田遺跡

1．遺跡の位置と環境

富沢水田遺跡は、東北本線長町駅の南西 1.5km、仙台市富沢に位置する。富沢地区は、沖積平野である「宮城野海岸平野」に含まれ、地形区分では「郡山低地」にあたる。郡山低地は、広瀬・名取両河川により画され、自然堤防が良好に発達し、後背湿地が随所に広がっている。富沢水田遺跡は、郡山低地西半部の後背湿地にその殆んどが立地し、標高は９～16mである。

昭和56年４月から行われた、仮称仙台市体育館建設に伴なう山口遺跡の調査の結果、北半の後背湿地から平安時代の水田跡が、南半の自然堤防上からは住居跡が検出された。また、プラント・オパール分析では、平安時代以前の水田跡の存在も予想された。郡山低地西半部では、昭和56年度から、仙台市高速鉄道関係遺跡の調査が行われていたが、後背湿地の路線敷部分から平安時代の水田跡が検出されたほか、弥生時代、中世の水田跡が検出されるに及び、郡山低地西半部の後背湿地には、水田跡が広く存在することがほぼ確実となった。

遺跡の周辺には、数多くの遺跡が分布しており、その時期は旧石器時代から近世にまで及び富沢地区では、縄文時代、弥生時代、平安時代、および中世の遺構が確認されている。



第７図　調査区位置図

2．調査に至る経過

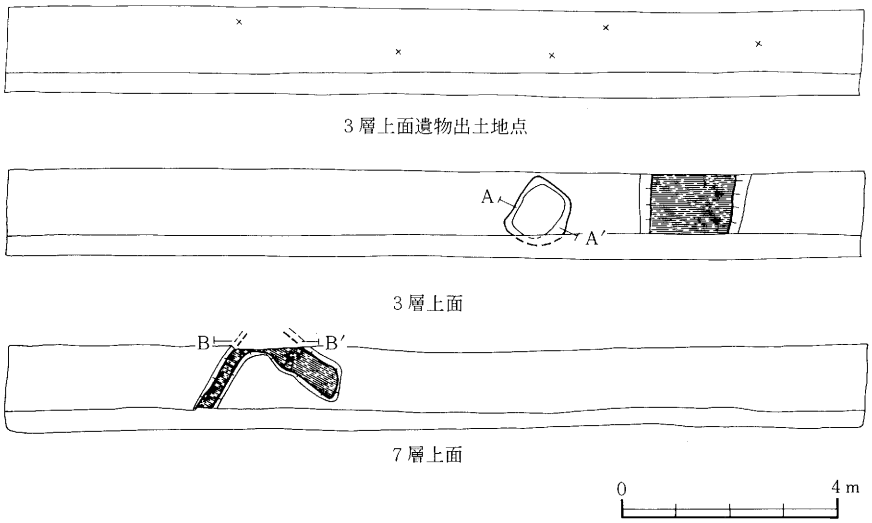
昭和57年12月３日付、東土木第128号で、 仙台市五橋三丁目２番１号、東北電気通信局長佐藤義雄氏より、仙台市長町南四丁目２番地付近において、電話線ケーブル布設のための洞道開削工事を実施する旨の発掘通知が提出されたので、工事に先行し、昭和58年６月17日、工区の東端で試掘調査を実施した。その結果、２層および７層上面で堆積の乱れが観察され、水田遺構の存在が推測されたので、申請者側と協議を重ねた結果、昭和58年７月から発掘調査に着手した。

調査箇所は両側が車輌道路として使用されており、振動等によるトレンチ壁面崩壊の危険性があったため、工区両側に鋼矢板を３ｍ幅で打込んだ。トレンチは、鋼矢板の間隔 2.3ｍ幅で長さ20ｍを工区内に設定し、盛土(厚さ約２ｍ)、旧水田耕作土(約20㎝)を重機により排土した。その後、両側に通路、排水溝を残し、東西方向で、幅 1.6ｍ、長さ16ｍの部分の調査を行った。幅の狭い調査区のため、南壁に沿って幅40㎝の先行トレンチを入れ、層序を確認しながら、各層上面での精査を実施した。

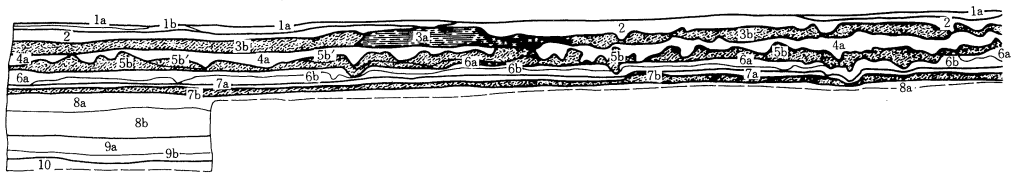
重機による掘削、および降水等の影響で、２層上面は殆んど削平を受けており、この上面での遺構検出は不可能であったが、３層上面で土坑１基、南北方向の畦畔遺構１条を検出し、また、５層上面でもトレンチ内でＬ字形に折れ曲がる畦畔遺構１条を検出した。

3．発見遺構と出土遺物

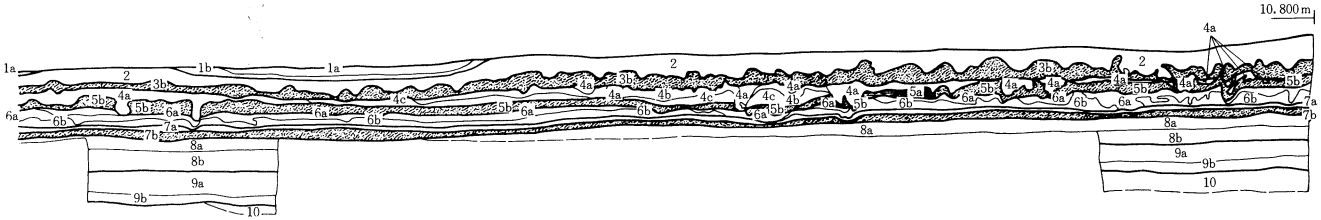
当調査区において認められた基本層位は、１～10層である。土質の点から大きく、１～３層の粘土質系のシルト層、４～６層の粘土層、７～８層の泥炭質粘土層、９～10層の砂質系の粘



第８図　検出遺構平面図

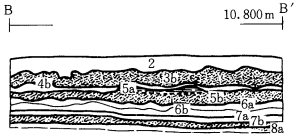


トレンチ南壁

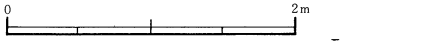


C-301（富沢水田遺跡）洞道工事トレンチ南壁断面図　土色註記表

層位	土　　色	土　性	備　　考
1 a	7.5YR5/1　褐灰色	砂質シルト	旧水田耕作土
1 b	7.5YR4/3　にぶい黄褐色	粘土質シルト	旧水田耕作土床土。酸化鉄集積層。
2	10YR3/1　黒褐色	粘　土	酸化鉄斑、凝灰岩粒（パミスか）をわずかに含む。
3 a	10YR5/3　にぶい黄褐色	粘土質シルト	畦畔遺構（水田跡土）。
3 b	10YR3/3　暗褐色	粘土質シルト	水田跡Ⅰ、耕作土、上層に灰白色火山灰(?)をブロック状に含む。下層に酸化鉄集積層。
4 a	10YR5/1　褐灰色	粘　土	
4 b	10YR6/3　にぶい黄褐色	粘　土	
4 c	10YR3/2　黒褐色	粘　土	未分解植物遺体を含む。
5 a	10YR2/1　黒色	粘　土	畦畔遺構（水田跡Ⅱ）。
5 b	10YR2/1　黒色	粘　土	水田跡Ⅱ耕作土、褐灰色粘土混入。
5 b′	10YR2/1　黒色	粘　土	水田跡Ⅱ耕作土。5 b 層より黒味がかっている。
6 a	10YR5/1　褐灰色	粘　土	6 b 層の漸移層。
6 b	10YR6/3　にぶい黄褐色	粘　土	未分解植物遺体を含む。
7 a	10YR2/1　黒色	粘　土	水田跡Ⅲ堆積土。未分解植物遺体を含む。
7 b	10YR3/2　黒褐色	粘　土	水田跡Ⅲ耕作土、未分解植物遺体を含む。
8 a	10YR2/3　黒褐色	粘　土	未分解植物遺体を含む。
8 b	10YR3/3　暗褐色	粘　土	未分解植物遺体を含む。
9 a	10YR2/1　黒色	粘　土	未分解植物遺体を含む。
9 b	7.5Y　3/2　オリーブ黒色	粘　土	9 a・10層の漸移層
10	7.5Y　5/2　灰オリーブ色	砂質粘土	粗砂を含む。

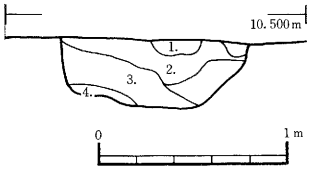


トレンチ北壁



第９図　トレンチ壁セクション図

土層に分けられる。この基本層位は、当調査区の南方30mの仙台市高速鉄道関係遺跡鍋田工区の調査における基本層位とほぼ同様であり、対応を示す。各層位面は、トレンチ西端で高く、東に傾斜し、東端との比高差は10～20mである。



1　5Y3/1　オリーブ黒　シルト質粘土
2　2.5Y3/1　黒　色　粘　土
3　2.5Y4/1　黄　灰　粘　土
4　2.5Y3/1　黒　褐　粘　土
陶器片を含む

第10図　土坑断面図

(1)　3層上面：2層黒褐色粘土の下層、標高10.4m前後で、暗褐色粘土質シルト層（3b層）をトレンチ全面で確認し、トレンチ東寄りで、畦畔1条、土坑1基を検出した。畦畔は、にぶい黄褐色粘土質シルトの純層（3a層）で、方向は南北方向である。断面形は台形状を呈す。上端幅140～160cm、下端幅150～200cmである。畦畔上面と水田面との比高差は、東側では9～14cm、西側では4～8cmである。3b層は、にぶい黄褐色粘土質シルトと黒褐色粘土を斑状に含み、4・5層堆積土が攪拌されて混入されたものと考えられ、畦畔に伴なう耕作土と捉えられる。また、層中には灰白色火山灰をブロック状に含み、3b層上面から土師器片3点、須恵器片1点を出土しており、平安時代以降の水田跡と考えられる。土坑は、長径1.2m、短径1.1m、深さ40cm、平面形は不整方形で、断面形は逆台形を呈す。堆積土2層黒色粘土から陶器片を1点出土している。

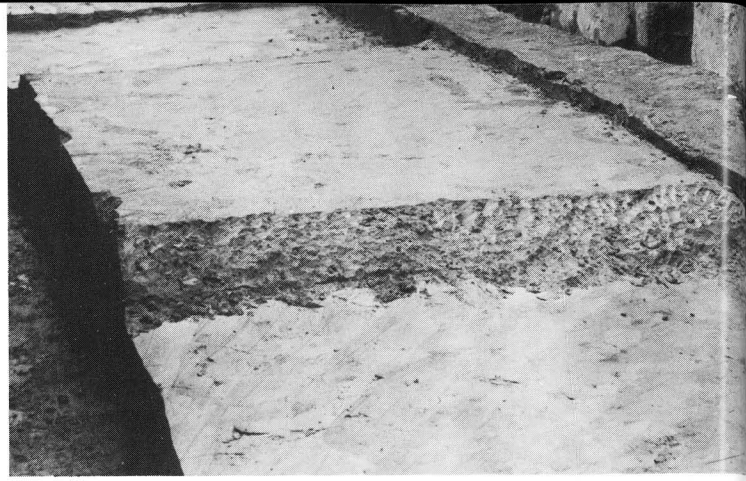
(2)　5層上面：トレンチ西寄りで、L字状に折れ曲がる畦畔1条を検出した。5層はやや褐灰色がかった堆積土層であるが、黒色粘土で色調・土性が均一な部分が、先行トレンチ壁面の観察でも、わずかに盛り上がり、畦畔として捉らえられた。作土との区別は、褐灰色粘土の混入の有無による。方向は、幅の広い大畦が南東方向に、幅の狭い小畦が南西方向に延びている。断面形は扁平な逆台形を呈す。上端幅は大畦が45～55cm、小畦が20～25cm、下端幅は大畦が60～70cm、下畦が35～40cmである。畦畔上面と水田面との比高差は4－6cmである。また、この畦畔の西側、トレンチ西端で10ヶ所ほど、5層上面で不規則な深さ約10cmの凹みを検出した。形態・方向性に規則性はなく、堆積土は粗砂であったが、牛馬もしくは人間の足跡の可能性も考えられた。

(3)　7層：この堆積層は、上面およびトレンチ壁面での観察で水田跡と特定することはできなかったが、近接する鍋田工区の調査で、7a層が弥生時代と考えられる水田堆積土、7b層が水田耕作土として捉えられており、層位的にも対応を示すことから、水田跡と捉えておく。

4．ま　と　め

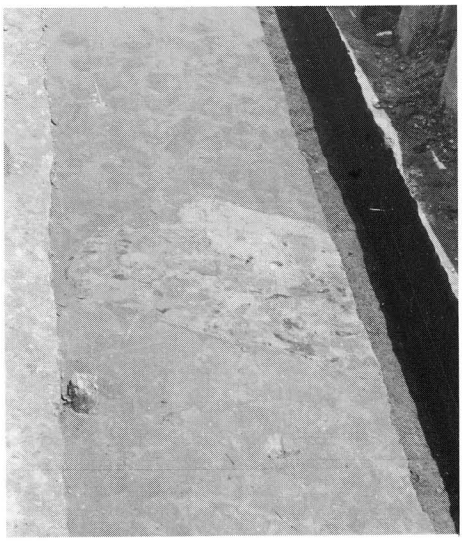
今回の調査では、遺跡の範囲確認が主たる目的であったが、3層上面および5層上面で畦畔が検出され、当調査区の北側にも水田遺構が広がっていく可能性が確認された。今回の調査では確認できなかったが、2層上面および7層上面での水田遺構検出も可能であろう。畦畔の方向、規格性など、より広域な調査の成果を待ちたい。

3層上面畦畔検出状況(西より)

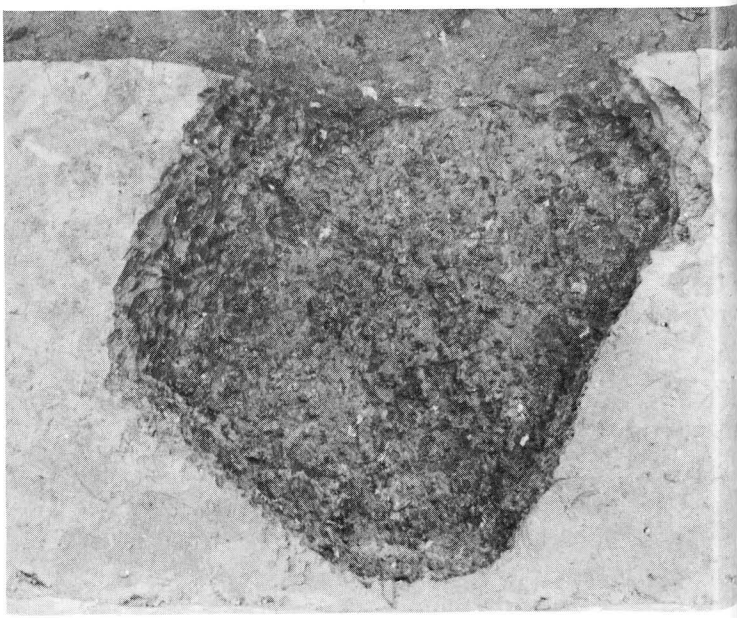


3層上面検出畦畔(東より)

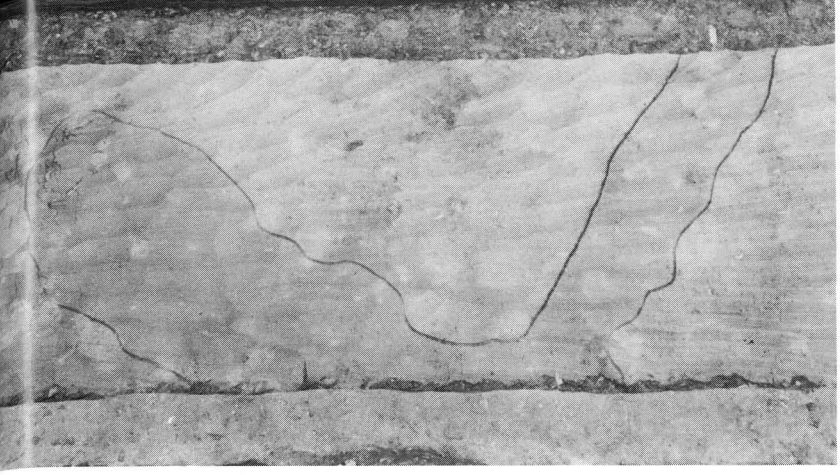
トレンチ南壁セクション(3層上面検出畦畔)



3層上面土坑検出状況(西より)

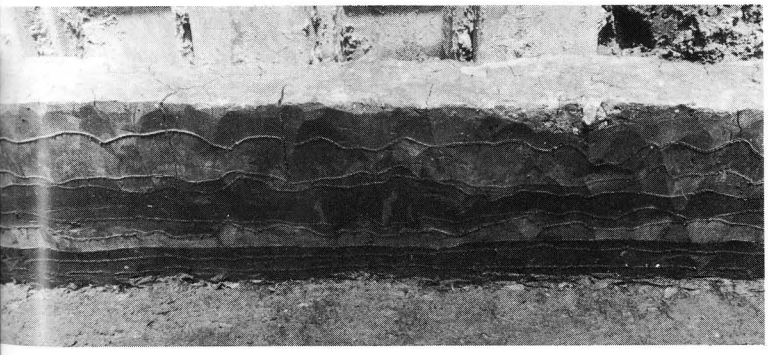


3層上面検出土坑(北より)



5層上面畦畔検出状況(北より)

5層上面検出畦畔(西より)



トレンチ北壁セクション(5層上面畦畔)

トレンチ全景(8層上面・東より)

3．遠見塚古墳出土の条痕文土器片

佐藤甲二・結城慎一・工藤哲司

ここに紹介する資料は、史跡遠見塚古墳発掘調査の際、表土層より出土したものである。[註1)] この土器は、東北中部に於ける弥生時代初期段階を考える上で、重要な資料と成り得るものと思われ、本報告に先がけ発表したしだいである。

遠見塚古墳は、仙台市域のほぼ中央、仙台市遠見塚一丁目地内に位置し、広瀬川左岸の標高10m前後の自然堤防上に位置する。当古墳は、全長約110mの前方後円墳で、東北地方では規模の点で第三位を誇る大型のものである。古墳を含めた周辺はまた、弥生時代中期から平安時代にわたる集落が形成された南小泉遺跡がひろがっている。

土器片は、口縁部から体部上半にかけてのものである。口縁部が内弯しており、深鉢形の器形を呈するものと思われる。外面は、貝殻状施文貝による条痕文が全面に施こされている。条痕の底面幅は1.5㎜前後、各条痕間の幅1㎜前後を測る。条痕は6条程が1単位となっており、1単位の幅は1.5㎝前後である。条痕の方向は、口縁上部が横位、その下位の約2㎝幅がやや斜位、これより下位になるとより角度の大きい斜位方向となる。施文順序は下から上となっている。口唇部及び内面は、ていねいな横位方向の磨きが施こされている。器厚は約5㎜。胎土には石英粒が多量に含まれるのが目立つ。焼成は良好で、外面黒褐色、内面褐色を呈す。

この土器の外面施文―条痕文―は、東海地方西部(愛知県中心)で成立し、その後、東日本まで波及していった条痕文系土器[註2)]に類例が求められる。さらに、条痕方向(単一方向)、器形の点より、条痕文系土器内でも古い段階に位置づけられる可能性もある。[註3)]

現在まで東北地方に於いて条痕文系土器は、福島県中部以南にまでしか分布を示さなかった。[註4)] しかし、当資料によりその北限は、一挙に宮城県中部の仙台平野にまで分布範囲を広げたといえる。これから、遠見塚古墳の資料整理が進むにつれ、この種の資料が増加すること、また、仙台平野に於いて、今後、共伴遺物を明確に出来るような遺跡の発見に期待したい。

なお、本資料については紅村弘氏よりさまざまな御教示を得た。厚く御礼申し上げます。

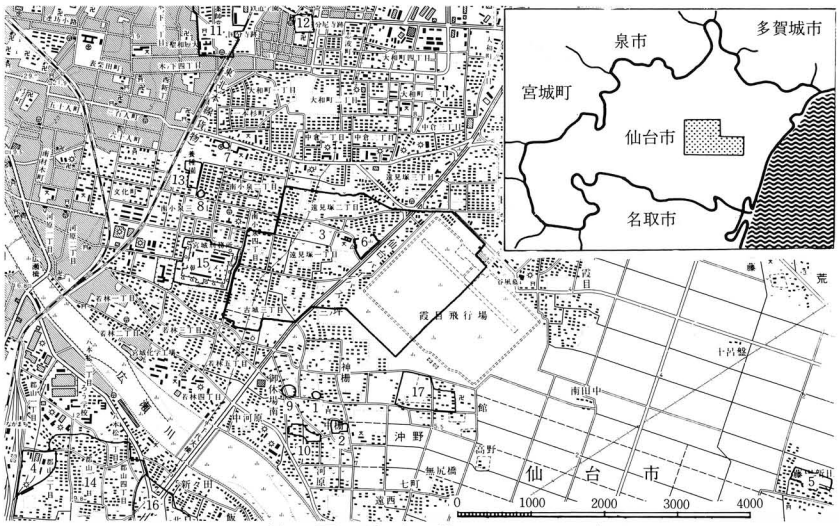
註

1．20トレンチ内出土。結城慎一・工藤哲司「史跡遠見塚古墳昭和57年度環境整備予備調査概報」仙台市教育委員会 1983

2．紅村弘氏の愛知県を中心とする編年では、樫王式から水神平Ⅲ式（岩滑式）までのものをさす。紅村弘「弥生時代成立の研究」1983　82～91・111P

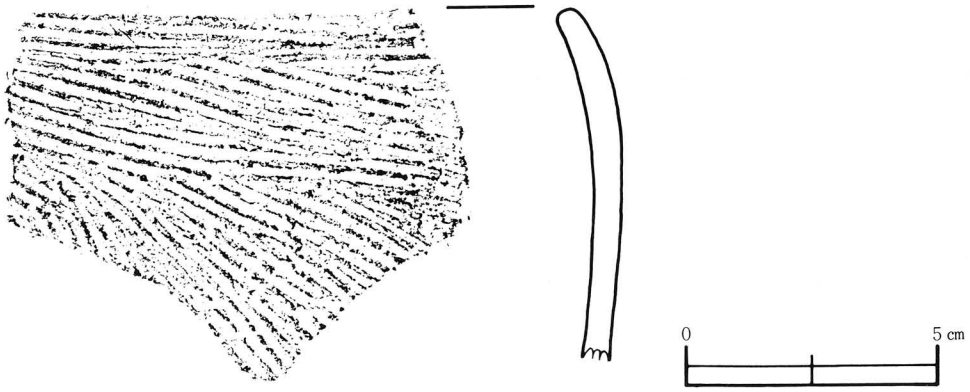
3．紅村弘氏の御教示による。紅村氏によれば、水神平式以後の深鉢は、条痕が複方向（羽状）となるものが多く、口縁部は外反し、条痕の形も異なり、当資料とは区別され、あえて類似性を求めるならば樫王式が上げられる（内面調整の上では全く異なる）とのことであった。

4．古い段階のものでは会津地方の墓料遺跡・上野遺跡が、新しい段階では中通り地方の鳥内遺跡出土土器が上げられる。弘村弘「弥生時代成立の研究」1983　112～113P

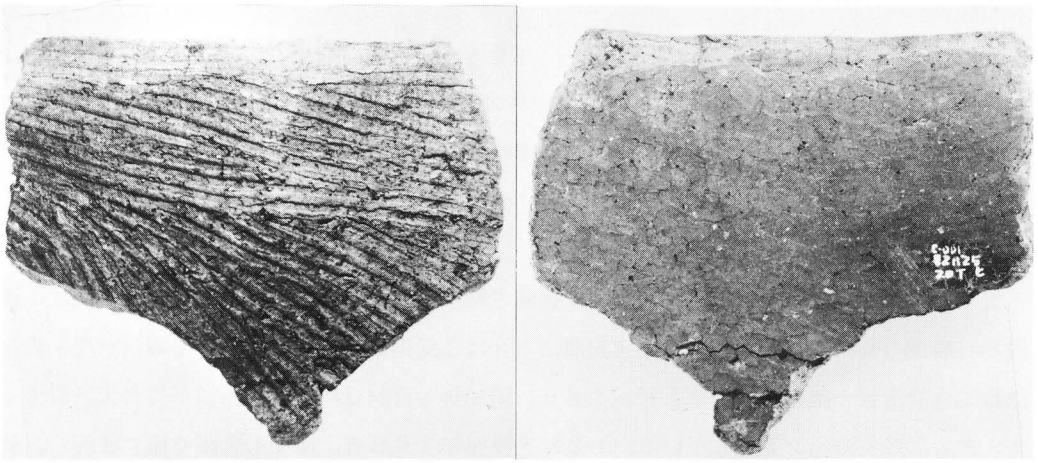


縄文時代
1．神柵遺跡(～平安)
2．中柵西遺跡(～平安)
弥生時代
3．南小泉遺跡(～平安)
4．西台畑遺跡(～古墳)
5．藤田新田遺跡
古墳時代
6．遠見塚古墳
7．法領塚古墳
8．猫塚古墳
9．砂押Ⅰ遺跡(～平安)
10．砂押Ⅱ遺跡(～平安)
奈良・平安時代
11．陸奥国分寺跡
12．陸奥国分尼寺跡
13．養種園遺跡
14．郡山遺跡
中・近世
15．若林城跡
16．北目城跡
17．沖野城跡

第11図　遺跡の位置と周辺の遺跡（国土地理院 1：25,000「仙台東南部」より）



撮影　断面実測



外　面　　内　面

拓影図及び写真

4．仙台市指定文化財候補物件調査報告Ⅱ

仙台市指定文化財の件数は、昭和58年度末現在有形文化財21件、史跡３件、天然記念物２件の計26件となっているが、指定の価値を有していると考えられながら未指定となっている物件は相当数残されている。仙台市教育委員会では、諮問機関である仙台市文化財保護委員会内に仙台市指定文化財候補物件調査小委員会を美術工芸・歴史文献・建造物・無形民俗・史跡考古名勝天然記念物の６部門に分けて設置し、候補物件の抽出・整理検討等に関する協議を行なっている。現在まで把握されている候補物件リストの中で、特に指定候補としての価値を詳細にわたって検討・評価する必要のあるものについて、その基礎的資料を作成するため、昨年度から指定候補物件調査事業を開始した。初年度の昭和57年においては、建造物２件（大梅寺庫裡愛宕山虚空蔵堂）及び彫刻４件（聖観世音菩薩立像ほか）の調査を実施している。本年度においては、建造物２件を東北大学工学部・佐藤巧教授（市文化財保護委員会副委員長）に、有形民俗文化財３件を東北学院大学文学部・岩崎敏夫教授（同委員会委員）に、及び天然記念物１件を太白地域自然愛好会（代表 高橋雄一）にそれぞれ調査を委託した。

本報告書では、このうち建造物２件について紹介するものである。

Ⅰ．建 造 物 部 門

佐　藤　　巧

（1） 大 年 寺 惣 門

大年寺は元禄10年（1697）に鉄牛道機によって茂ヶ崎に開かれた禅寺で、山号を両足山と称する。臨済派に属する黄檗宗の寺である。黄檗宗の寺は仙台では珍しく、他には小田原の万寿寺、また近隣には宮城町の臨済院などがあるが、ともに廃寺となり、現在はその遺構も皆無に近い。

大年寺は、盛時には仏殿を中心に禅堂、斉堂方丈、庫裡、鐘楼、鼓楼、経蔵、東司、寮などを具備した堂々たる伽藍であった。正面入口に山門、そして中門、さらに遠く惣門を置いた。明治維新に際して悉く取り毀され、一部に移築転用されているものがあるが、旧地において現存するのはこの門が唯一のものとなっている。他に転用遺構として多賀城市南宮の慈雲寺惣門がある。

大年寺の堂宇は元禄から享保にわたって整備されているが、その中にあってこの惣門は比較的早い時期のものである。肯山公治家記録によれば、元禄９年10月16日、伊達綱村が茂ヶ崎を訪ねて寺院造営の縄張、鍬初めを行っており、同10年１月24日には鉄牛和尚が仙台に下着するや、ともに茂ヶ崎山を見分している。そして元禄10年３月８日、早くも大年寺建立成就し、鉄

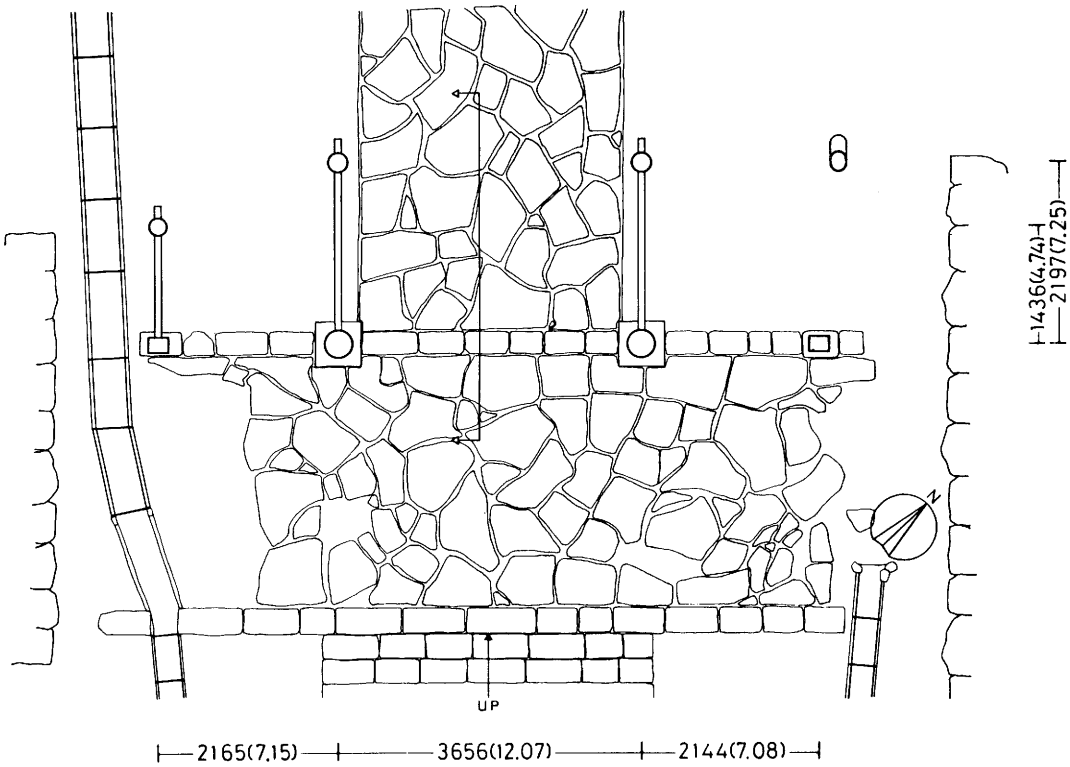
牛和尚入院し、開山の儀式を挙行している。治家記録のこの日の項に「鉄牛和尚今朝虚空蔵別当大満寺へ来儀、彼寺ヨリ乗輿、辰刻大年寺へ入院、大満寺へ御迎、遠山友之助、惣門へ御使津田又次郎西大條主計、中門へ遠藤内匠、公山門マテ御出迎、萬寿寺月耕和尚并鳳山和尚始黄檗一派、僧各罷出、於諸堂開堂執行アリ、公仏殿伽藍祖師堂ニ於テ御焼香御拝……」とあって、仏殿の他にこの日までにすでに山門、中門そして惣門の位置が決定されていることを知る。

現存の惣門は破損が甚だしいが、創建以後に焼失、再建ないし移建された事実もなく、またその細部装飾の点からみて元禄からそう遠くない時期の建築とみて大過ないものと思われる。

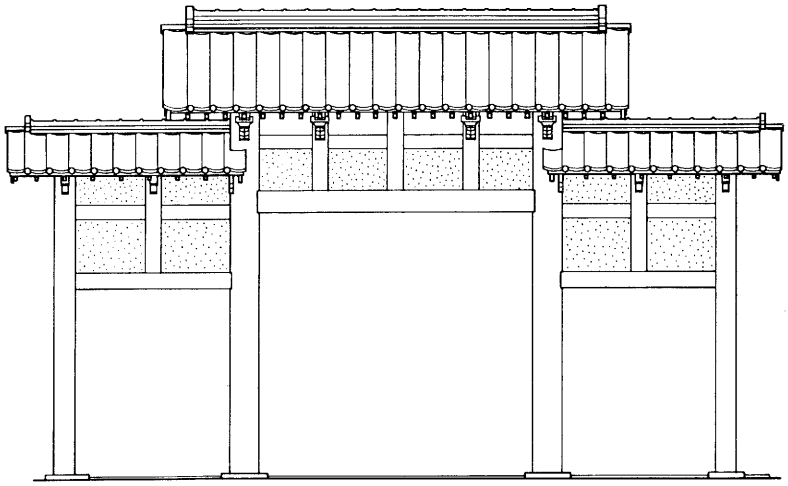
大年寺門前（現在、門前町は新道によって分断）を進むと、高い石段の裾にこの門が望まれる。枯淡な門で飄々とした趣がある。２本の円柱の本柱（扉は現在失われている）に肘木を挿して軒桁を支え、本柱の頂部に斗を載せて直ちに棟木を受け、切妻の棧瓦葺屋根を葺く。本柱の背後に控柱を建ててこの上にも切妻の棧瓦屋根をかけ、また本柱の左右両脇にも支柱を建てて同じく切妻の棧瓦屋根をかけ、都合５個の切妻屋根を持っている。外観は高麗門の形式にさらに左、右の袖をつけ、一段と複雑にした形である。

架構的には簡素な門であるが、挿肘木、頭貫木鼻、板肘木の絵様、また妻飾懸魚や鰭の形状など細部装飾に元禄創建時の様式的特徴が認められる。

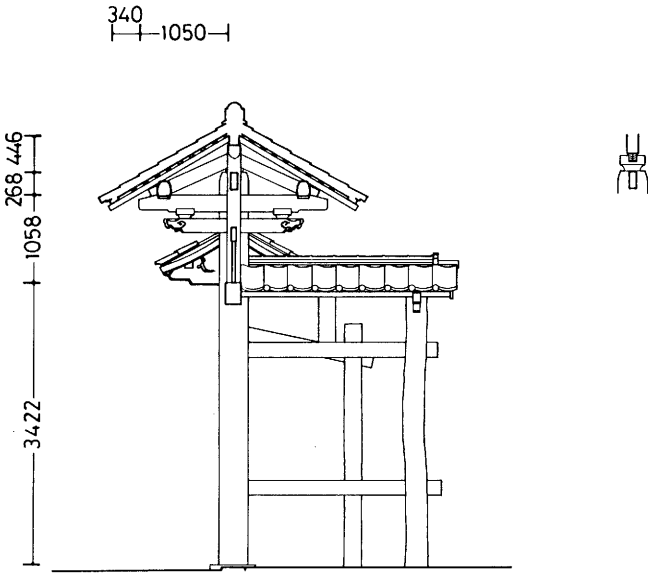
奇抜な門で、黄檗宗建築としても数少い遺構である。



（平　面　図）



（立　面　図）



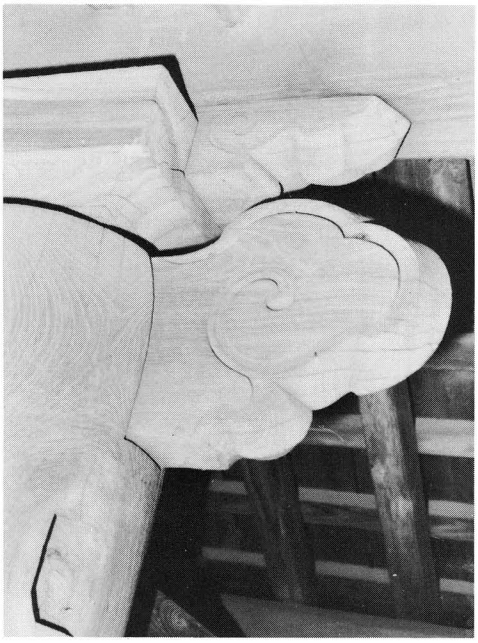
（断　面　図）

（正　　面）

（背　　面）

（背面右側）

（挿 肘 木）



（頭貫木鼻）

（妻飾懸魚）

（２） 孝勝寺釈迦堂（もと榴ヶ岡釈迦堂）

４代藩主伊達綱村が生母三沢初子（浄眼院夫人）の冥福を祈るため、生母が生前護持した釈迦尊像をおさめるための持仏堂を建てた。これが現在の釈迦堂である。この釈迦堂はもと榴ヶ岡に在ったが、榴ヶ岡公園整備と管理の上から、最近孝勝寺境内地に移建された。孝勝寺の裏手には孝勝寺殿廟と並んで浄眼院殿廟があり、元来浄眼院夫人にとって孝勝寺は縁の深い寺である。

肯山公治家によれば、元禄７年10月20日に伊達綱村が釈迦堂建立の地を見分、同月25日釿初、同年11月４日鍬始めの儀があり、そして山家喜兵衛、氏家清五郎、細目助太郎が普請奉行を命ぜられた。同年12月24日に地鎮祭執行、元禄８年１月12日柱立、同年１月28日上棟、同年３月８日に釈迦堂に釈迦尊像入仏供養を執行、同年３月11日造営が完了している。大工棟梁は松原助兵衛重成、鋳工は早井弥兵衛定次である。

堂の規模は方三間、即ち桁行・梁間ともに３間、宝形造、銅板葺。桁行寸法は708.6センチメートル（23.38尺）、梁間寸法は708.9センチメートル(23.40尺)。前面に１間の向拝を付ける。現在は四周の基壇縁辺に高欄を巡らしている。

軸部は円柱に台輪、頭貫、内法長押、腰長押、板壁で土台を設ける。正面１間に棧唐戸、その両脇間に花灯窓を配する。また左右両側の前面１間にも花灯窓を開ける。花灯窓には縦、横に棧を吹き寄せに挿入。屋根の頂上には露盤、伏鉢、宝珠を載せる。

斗栱は出組で軒支輪を配し、軒は二軒繁垂木。中備に蟇股を置く。正面内法長押と頭貫との間に宝相華唐草文の欄間を入れるが、この部は室内側が菱格子欄間となって意匠を異にする。側面においては前面１間分のみ同様の趣向になるが、他は内・外ともに菱格子欄間となっている。本棟柱と向拝柱との間には繋ぎの虹梁は無く、手挾がある。向拝の水引虹梁の中央に蟇股を置き、虹梁木鼻は抽象化された象頭となる。外面に用いられた蟇股は脚の内に彫刻類を一切挿入せず、素朴な形のもの。

堂内は畳敷の内陣と畳敷の外陣とに別れ、両者の境には円柱２本が立ち、内陣部は一段高い。須弥壇は禅宗様の繰型があり、高欄には禅宗様特有の蕨手が付く。厨子は須弥壇上に立つ円柱によって支えられた唐破風屋根があって、中に宝塔状の厨子が安置され、そのうちに釈迦尊像を内蔵する。須弥壇は中央部に蓮華唐草文彫刻を挿入し、黒漆塗を基調に、アクセントに朱漆を配色している。厨子の柱、軒唐破風、虹梁、蟇股などは黒漆、飾金具、金箔を以て装飾し、華麗な装飾効果を挙げている。なお内陣、外陣ともに格天井を張る。

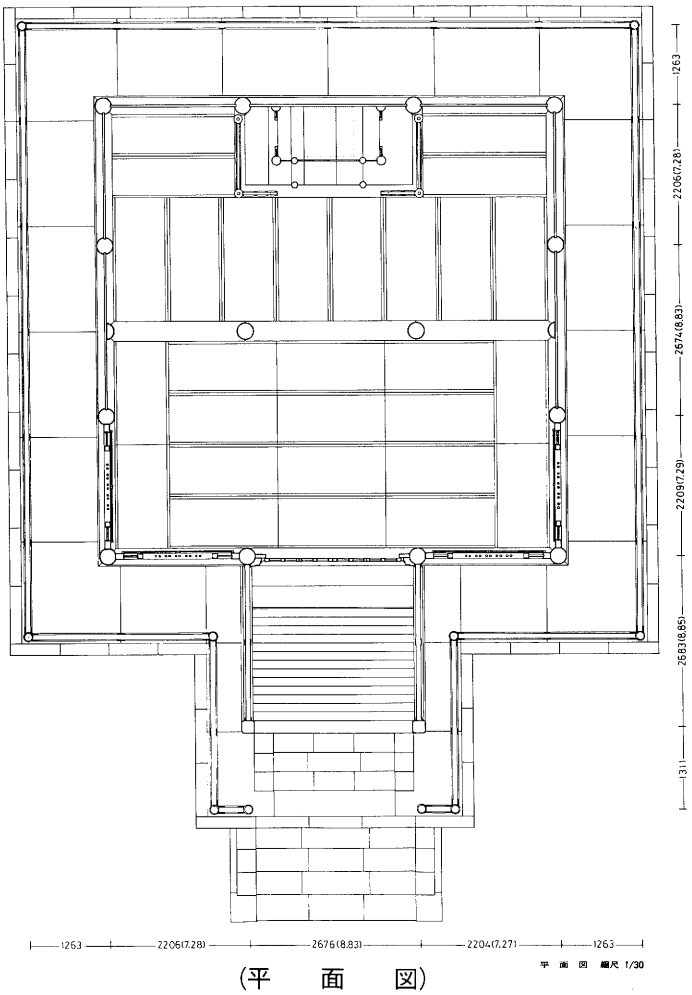
内陣、外陣境に立つ柱の間には３本の虹梁を渡し、それぞれの中央に蟇股を配する。中央の間の蟇股内には牡丹を彫刻、またその下の欄間には雲間に飛翔する楽人を彫刻。これらの彫刻は金泥塗となる。

伊達家御修覆帳によれば「中之間八尺八寸脇之間七尺貳寸二分　屋根瀬戸瓦葺方形作」とある。従って屋根は当初は瀬戸瓦葺であったことがわかる。また宝珠の形も変っている。御修覆帳所載の堂平面図には四周に縁があり、「四方飛縁高欄」との記入がある。現在は板敷縁が失われ、基壇に替っていることが知られる。また花灯窓はもとは連子窓であったことが痕跡からも確かめられるが、同御修覆帳に「角連子」とあるので、後の改変になることが分る。

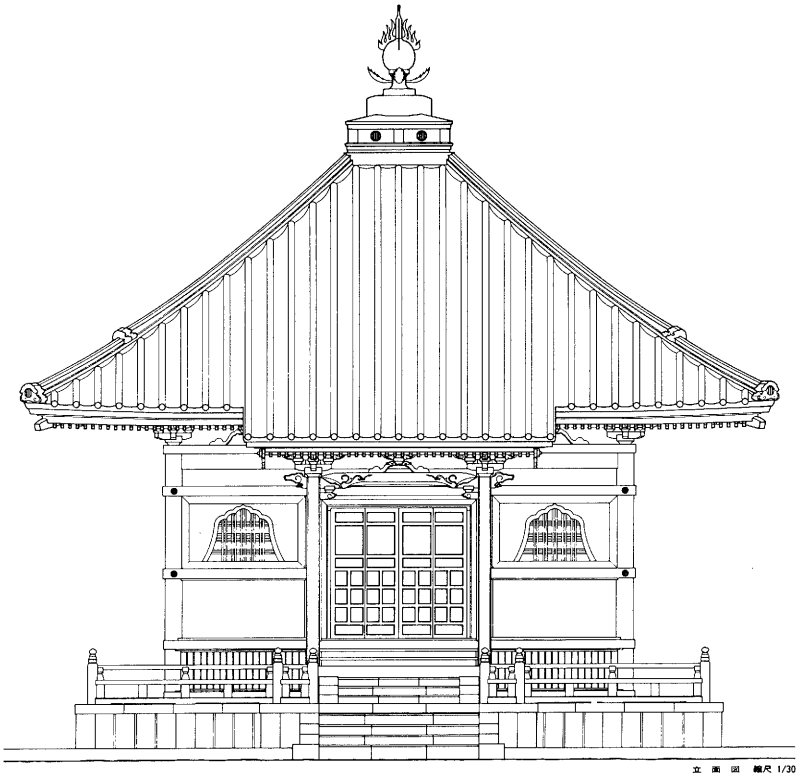
現在、外観の柱、台輪、頭貫、長押、欄間、蟇股、蛇腹、斗栱などは黒色、琵琶板、裏甲などは朱色、壁は白色となっているが、もとは素木造りであったと考えられる。

創建以来、色彩面において、また部分的な改変は認められるが、向拝虹梁、蟇股、斗栱、また内部の厨子、須弥壇、柱間装飾など、元禄創建時代の様式的特徴を伝えている遺構である。

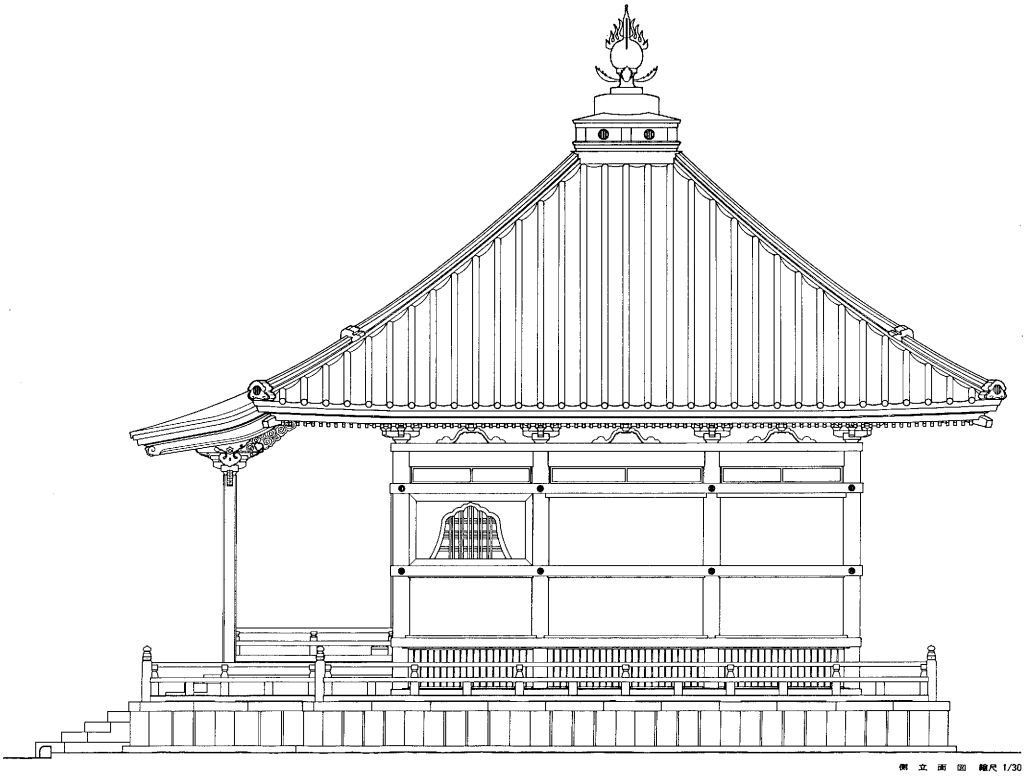
（正　　面）


126.3
2206(7.28)
2676(8.83)
2204(7.27)
126.3
126.3
2206(7.28)
2674(8.83)
2209(7.29)
2683(8.85)
131
平面図 縮尺 1/30

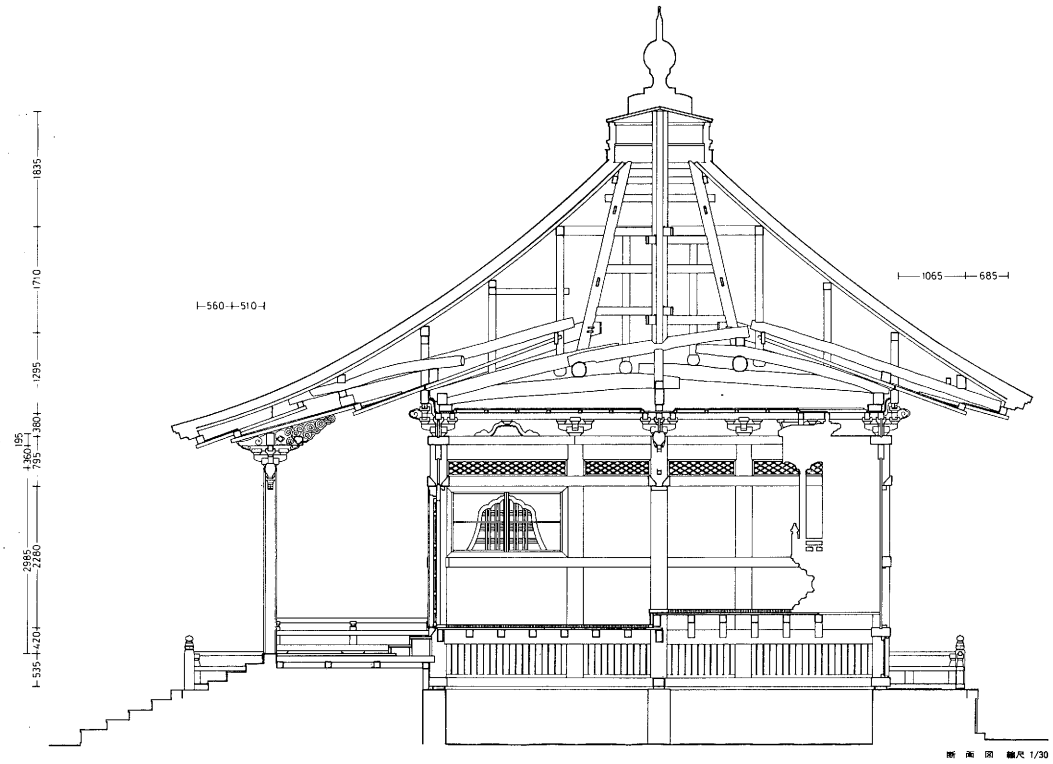
（平　面　図）


立面図 縮尺 1/30

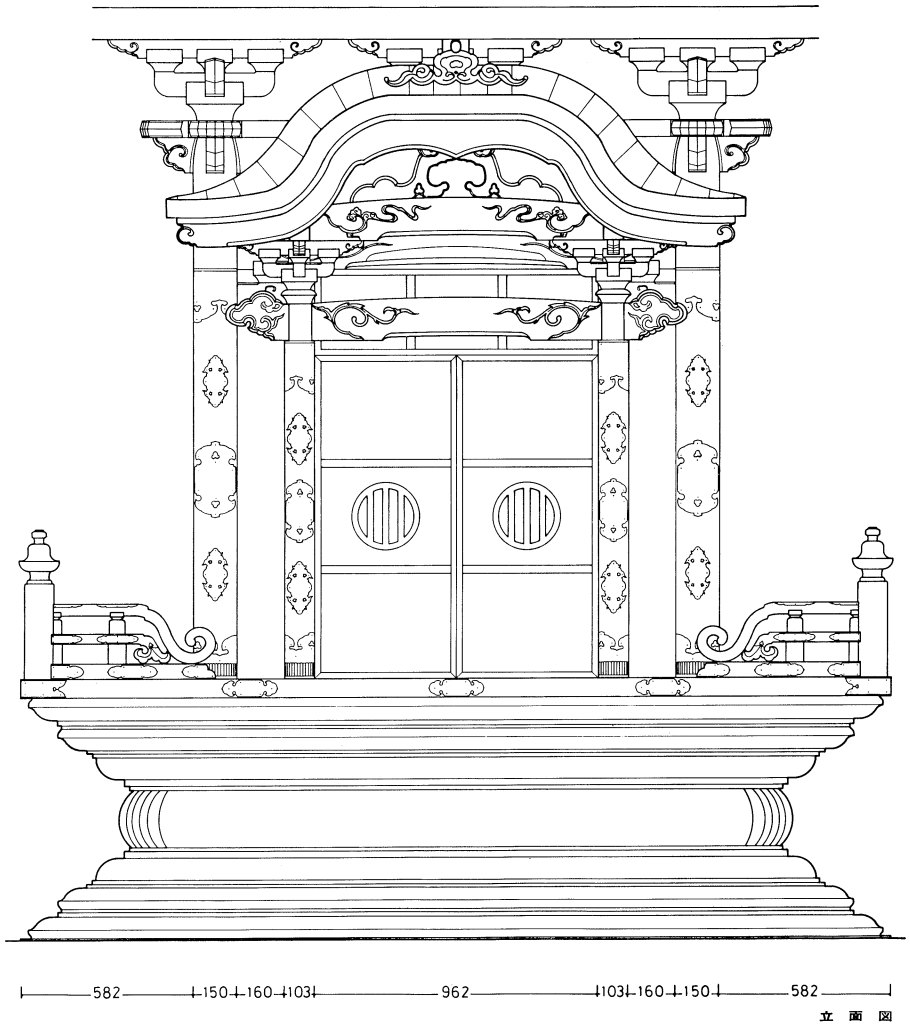
（立　面　図）


側立面図 縮尺 1/30

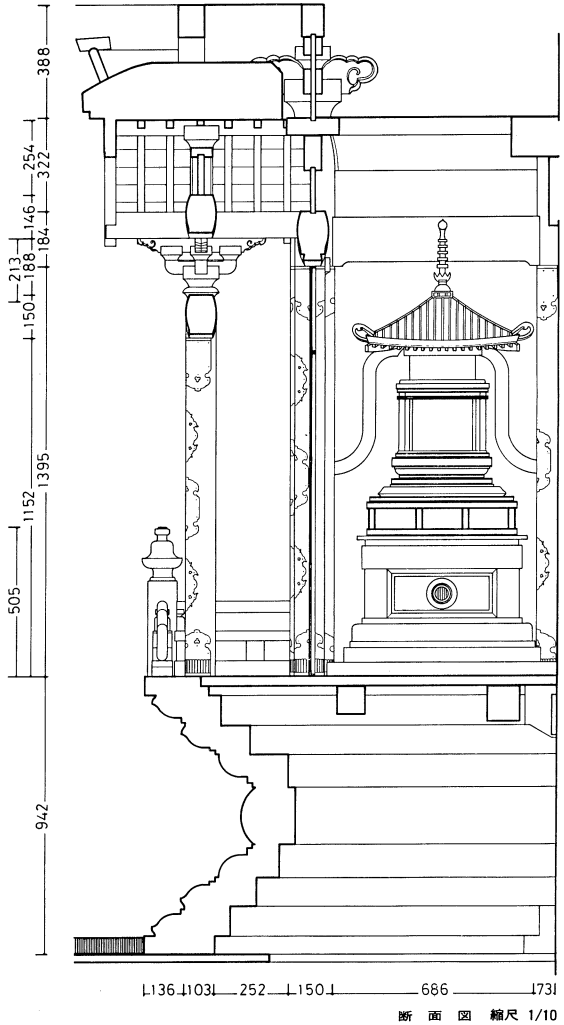
（側　立　面　図）


560
510
1065
685
1835
1710
1295
1380
195
1360
795
2385
2280
535
420
断面図 縮尺 1/30

（断　　面　　図）

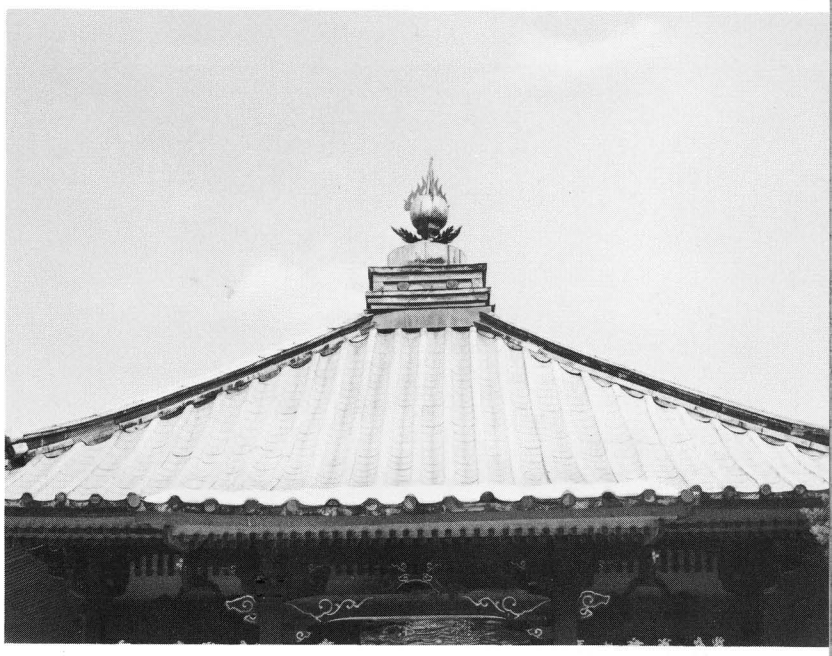

582
150
160
103
962
103
160
150
582
立 面 図

（厨 子 立 面 図）


388
254
322
146
184
213
188
150
1395
1152
505
942
136
103
252
150
686
731
断 面 図 縮尺 1/10

（厨 子 側 面 図）

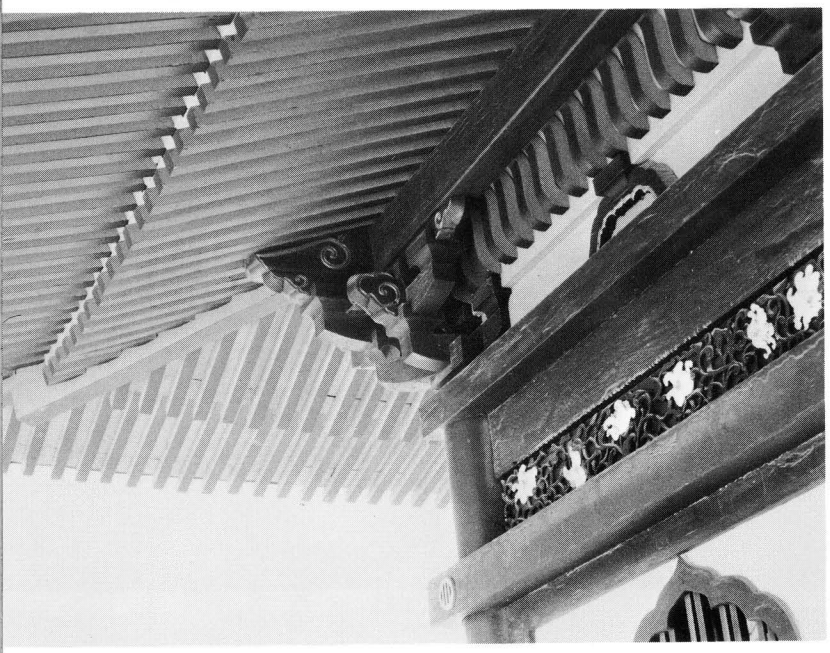
（側　　面）



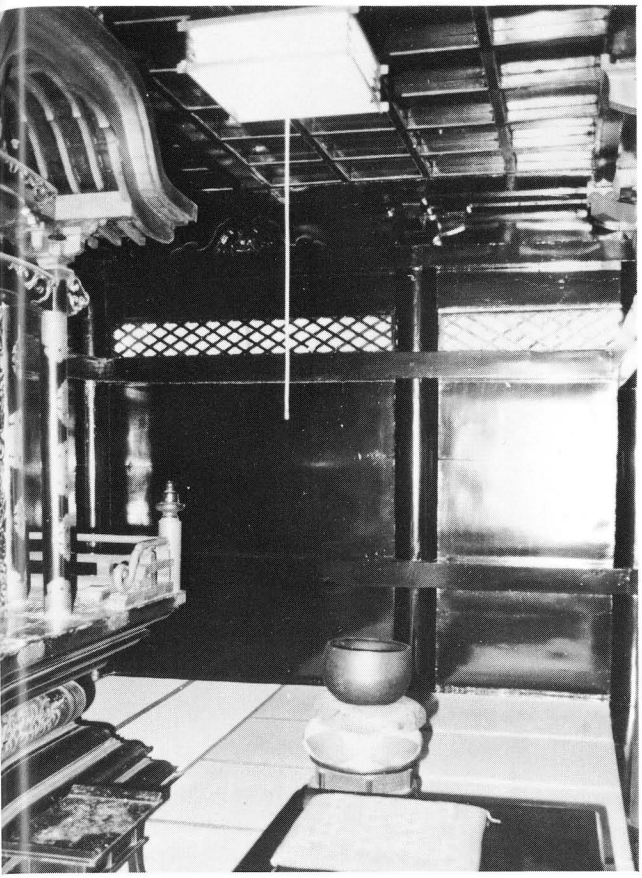
（宝　　珠）

（向拝正面）

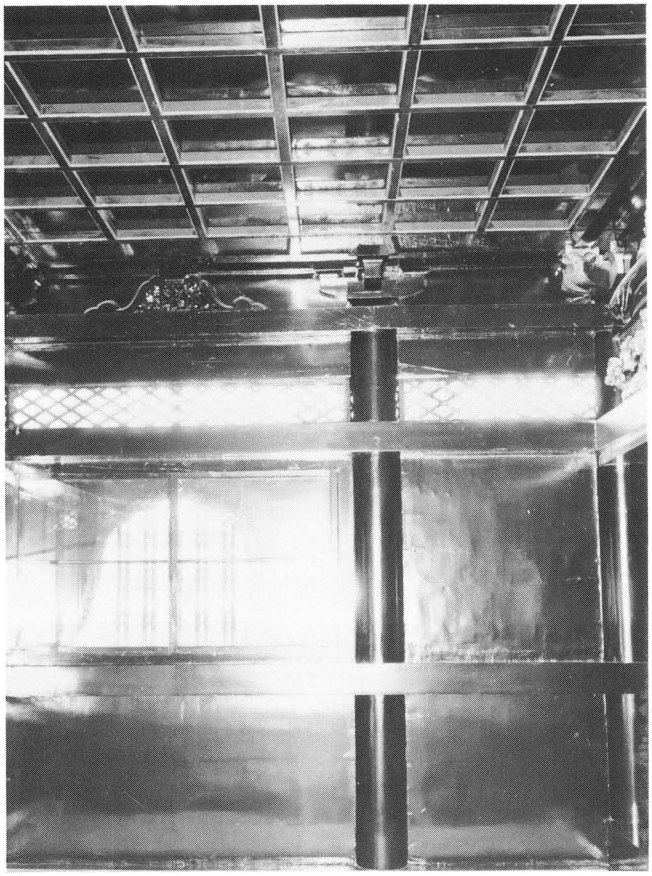
（向拝側面）



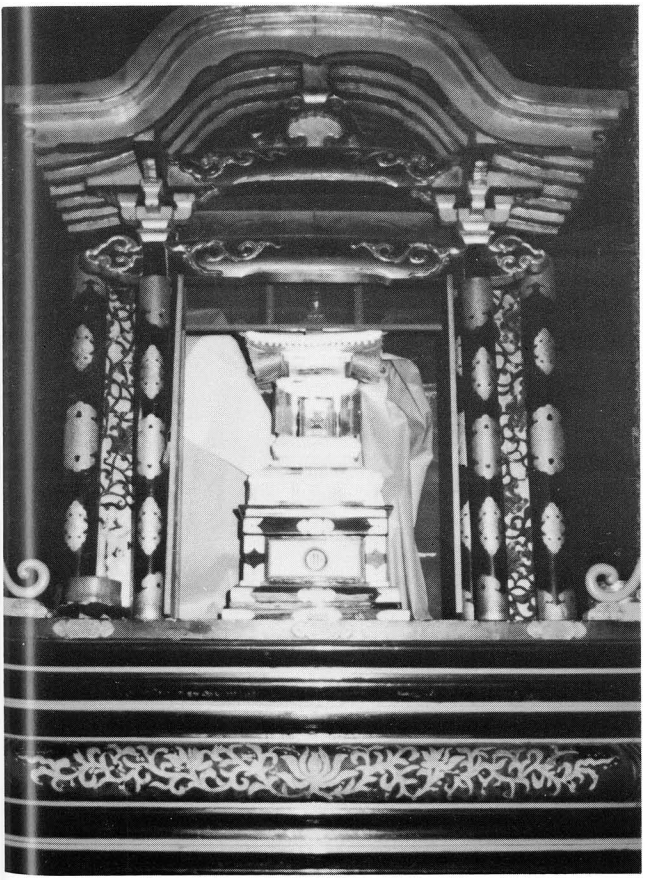
（正面左側軒回り）



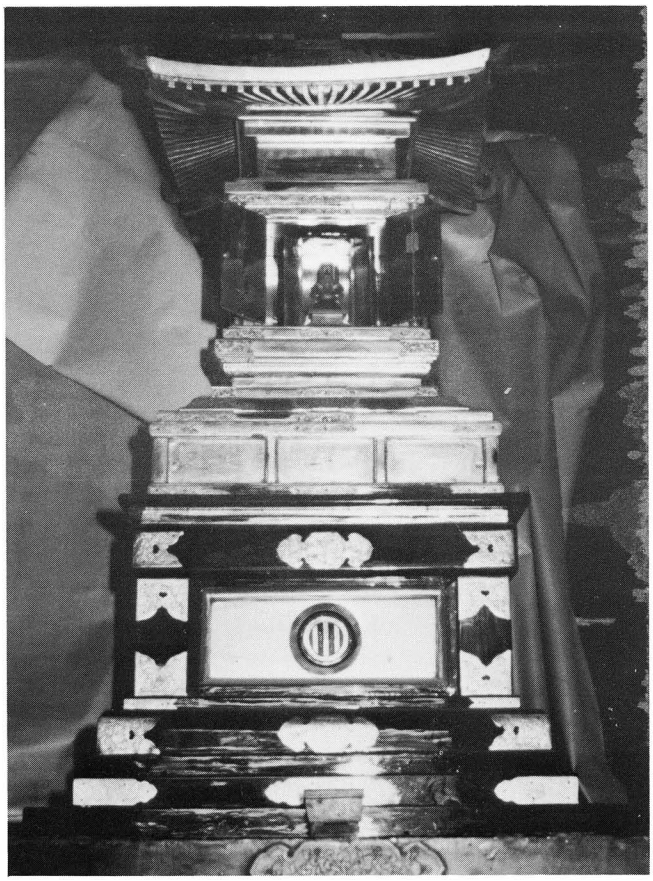
（内　　陣）



（外　　陣）



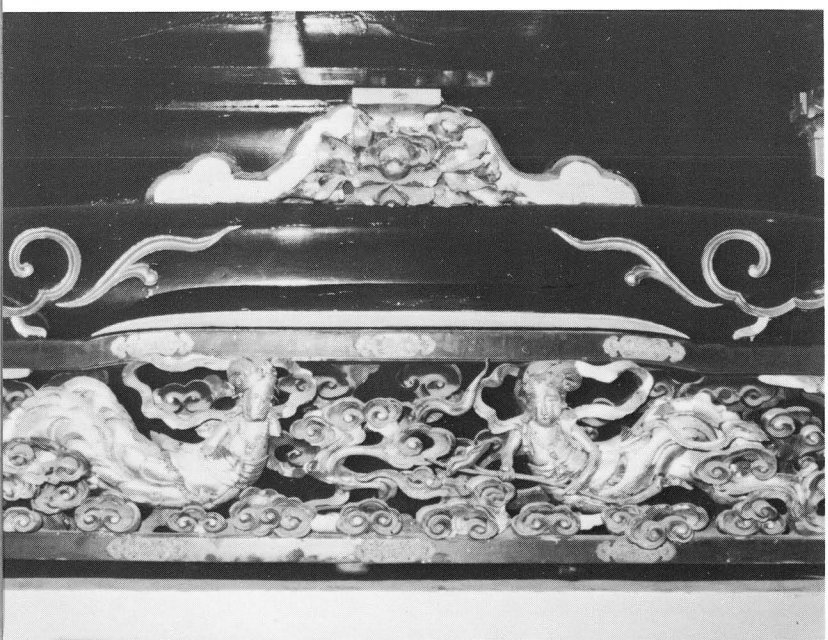
（須弥壇・厨子）



（宝塔状の厨子）

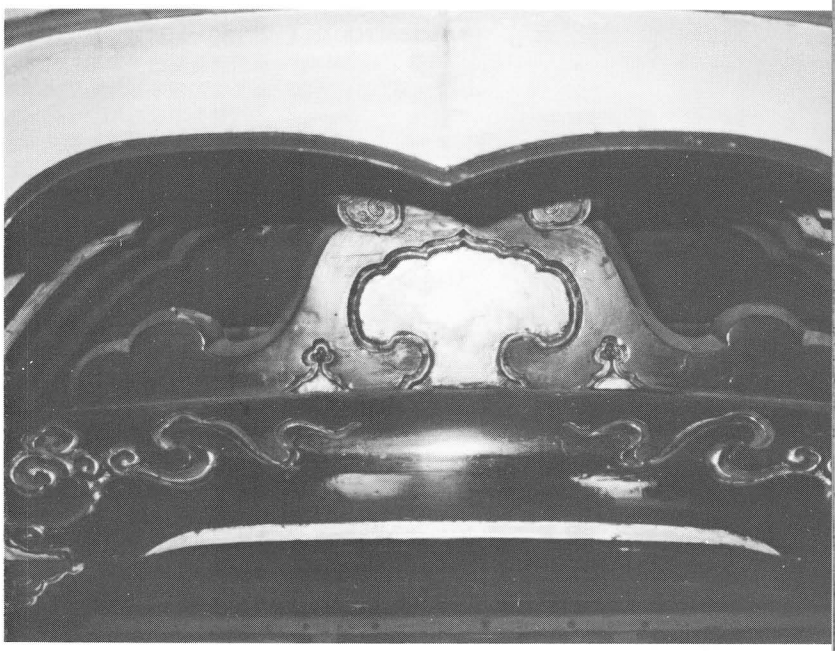
（内陣外陣境中央の蟇股
及び欄間彫刻）

（内陣外陣境の蟇股
及び欄間彫刻）

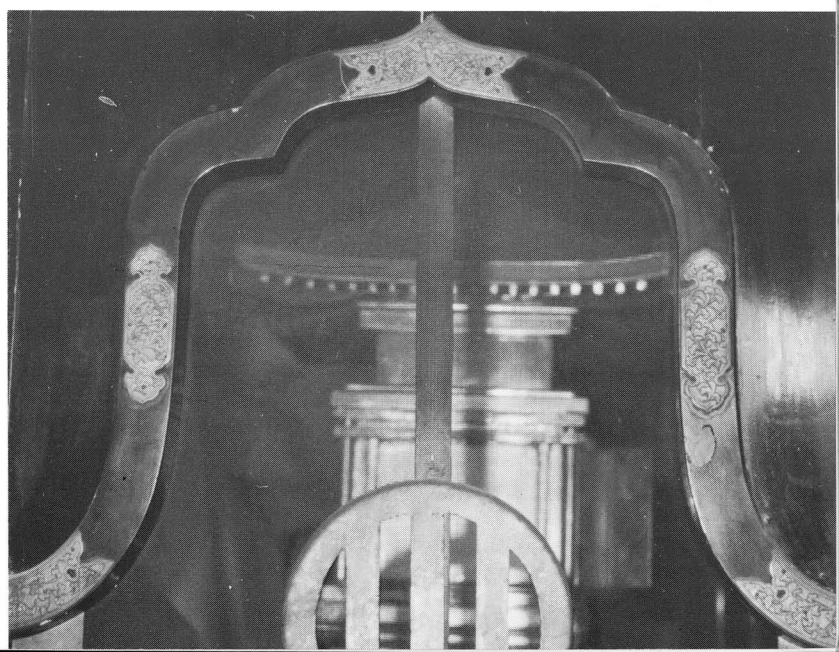


（内陣外陣境の蟇股
及び欄間彫刻）

（厨子のディティール）



（厨子のディティール）



（厨子のディティール）

職　員　録

社会教育課

課　長	永野昌一
主　幹	早坂春一

文化財管理係

係　長	大沢隆夫
主　事	岩沢克輔
〃	山口　宏

文化財調査係

係　長	佐藤　隆
教　諭	渡辺　忠彦
〃	佐藤　裕
主　事	田中　則和
〃	結城　慎一
教　諭	成瀬　茂
〃	菅原　和夫
〃	青沼　一民
主　事	木村　浩二
〃	篠原　信彦
〃	佐藤　洋
主　事	金森　安孝
〃	佐藤　甲二
〃	吉岡　恭平
〃	工藤　哲司
〃	渡部　弘美
教　諭	渡辺　誠
主　事	主浜　光朗
〃	斎野　裕彦
〃	長島　栄一
〃	荒井　格
派遣職員	高橋　勝也

仙台市文化財調査報告書刊行目録

第１集　天然記念物霊屋下セコイヤ化石林調査報告書（昭和39年４月）
第２集　仙台城（昭和42年３月）
第３集　仙台市燕沢善応寺横穴古墳群調査報告書（昭和43年３月）
第４集　史跡陸奥国分尼寺跡環境整備並びに調査報告書（昭和44年３月）
第５集　仙台市南小泉法領塚古墳調査報告書（昭和47年８月）
第６集　仙台市荒巻五本松窯跡発掘調査報告書（昭和48年10月）
第７集　仙台市富沢裏町古墳発掘調査報告書（昭和49年３月）
第８集　仙台市向山愛宕山横穴群発掘調査報告書（昭和49年５月）
第９集　仙台市根岸町宗禅寺横穴群発掘調査報告書（昭和51年３月）
第10集　仙台市中田町安久東遺跡発掘調査概報（昭和51年３月）
第11集　史跡遠見塚古墳環境整備予備調査概報（昭和51年３月）
第12集　史跡遠見塚古墳環境整備第二次予備調査概報（昭和52年３月）
第13集　南小泉遺跡―範囲確認調査報告書―（昭和53年３月）
第14集　粟遺跡発掘調査報告書（昭和54年３月）
第15集　史跡遠見塚古墳昭和53年度環境整備予備調査概報（昭和54年３月）
策16集　六反田遺跡発掘調査（第２・３次）のあらまし
第17集　北屋敷遺跡（昭和54年３月）
第18集　枡江遺跡発掘調査報告書（昭和55年３月）
第19集　仙台市地下鉄関係分布調査報告書（昭和55年３月）
第20集　史跡遠見塚古墳昭和54年度環境整備予備調査概報（昭和55年３月）
第21集　仙台市開発関係遺跡調査報告１（昭和55年３月）
第22集　経ケ峯（昭和55年３月）
第23集　年報１（昭和55年３月）
第24集　今泉城跡発掘調査報告書（昭和55年８月）
第25集　三神峯遺跡発掘調査報告書（昭和55年12月）
第26集　史跡遠見塚古墳昭和55年度環境整備予備調査概報（昭和56年３月）
第27集　史跡陸奥国分寺跡昭和55年度発掘調査概報（昭和56年３月）

第28集　年報２（昭和56年３月）
第29集　郡山遺跡Ⅰ－昭和55年度発掘調査概報－（昭和56年３月）
第30集　山田上ノ台遺跡発掘調査概報（昭和56年３月）
第31集　仙台市開発関係遺跡調査報告Ⅱ（昭和56年３月）
第32集　鴻ノ巣遺跡発掘調査報告書（昭和56年３月）
第33集　山口遺跡発掘調査報告書（昭和56年３月）
第34集　六反田遺跡発掘調査報告書（昭和56年12月）
第35集　南小泉遺跡－都市計画街路建設工事関係第１次調査報告（昭和57年３月）
第36集　北前遺跡発掘調査報告書（昭和57年３月）
第37集　仙台平野の遺跡群Ⅰ－昭和56年度発掘調査報告書－（昭和57年３月）
第38集　郡山遺跡Ⅱ－昭和56年度発掘調査概報－（昭和57年３月）
第39集　燕沢遺跡発掘調査報告書（昭和57年３月）
第40集　仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅰ（昭和57年３月）
第41集　年報３（昭和57年３月）
第42集　郡山遺跡－宅地造成に伴う緊急発掘調査－（昭和57年３月）
第43集　栗遺跡（昭和57年８月）
第44集　鴻ノ巣遺跡発掘調査報告書（昭和57年12月）
第45集　茂庭－茂庭住宅団地造成工事地内遺跡発掘調査報告書－（昭和58年３月）
第46集　郡山遺跡Ⅲ－昭和57年度発掘調査概報－（昭和58年３月）
第47集　仙台平野の遺跡群Ⅱ－昭和57年度発掘調査報告書－（昭和58年３月）
第48集　史跡遠見塚古墳昭和57年度環境整備予備調査概報（昭和58年３月）
第49集　仙台市文化財分布調査報告Ⅰ（昭和58年３月）
第50集　岩切畑中遺跡発掘調査報告書（昭和58年３月）
第51集　仙台市文化財分布地図（昭和58年３月）
第52集　南小泉遺跡－都市計画街路建設工事関係第２次調査報告（昭和58年３月）
第53集　中田畑中遺跡発掘調査報告書（昭和58年３月）
第54集　神明社窯跡発掘調査報告書（昭和58年３月）
第55集　南小泉遺跡－青葉女子学園移転新営工事地内調査報告（昭和58年３月）
第56集　仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅱ（昭和58年３月）
第57集　年報４（昭和58年３月）
第58集　今泉城跡（昭和58年３月）
第59集　下ノ内浦遺跡（昭和58年３月）
第60集　南小泉遺跡－倉庫建築に伴う緊急発掘調査報告書－（昭和58年３月）
第61集　山口遺跡Ⅱ－仙台市体育館建設予定地－（昭和59年２月）
第62集　燕沢遺跡（昭和59年３月）
第63集　史跡陸奥国分寺跡昭和58年度発掘調査概報（昭和59年３月）
第64集　郡山遺跡Ⅳ－昭和58年度発掘調査概報－（昭和59年３月）
第65集　仙台平野の遺跡群Ⅲ－昭和58年度発掘調査報告書－（昭和59年３月）
第66集　年報５（昭和59年３月）
第67集　富沢水田遺跡－第１冊－泉崎前地区（昭和59年３月）
第68集　南小泉遺跡－都市計画街路建設工事関係第３次調査報告（昭和59年３月）
第69集　仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅲ（昭和59年３月）
第70集　戸ノ内遺跡発掘調査報告書（昭和59年３月）
第71集　後河原遺跡（昭和59年３月）
第72集　六反田遺跡Ⅱ（昭和59年３月）
第73集　仙台市文化財分布調査報告書Ⅱ（昭和59年３月）

仙台市文化財調査報告書第66集

昭和58年度

年　　報　　5

昭和59年3月

発行　仙台市教育委員会
仙台市国分町3－7－1
仙台市教育委員会社会教育課

印刷　針生印刷株式会社
仙台市伊在白山印刷団地3号 ☎88－5011